

山梨県立大学地域研究交流センター 2019 年度研究報告書

年 報

山梨県立大学地域研究交流センター

目 次

地域研究交流センター長挨拶「より深い地域との連携を目指して」	1
I. 交流・発信部門	3
1. 交流・発信部門事業の概要	3
2. 部門事業の実績と課題について	4
【交流・発信部門の個別事業】	5
1. 講師・委員等の応嘱	5
2. 教員の地域貢献活動への支援	6
3. 学生による地域貢献活動への支援	7
4. 大学周辺地域との連携（自治会との連携、防災訓練、健康まつり）	7
5. 連携協定に基づく連携	11
6. その他の学外団体等との連携・相談窓口	18
7. フューチャーセンターの運営	18
8. 年報の発行	18
9. ウェブサイト・SNS での情報発信	19
10. 受託事業	19
II. 生涯学習部門	21
1. 部門事業の概要	21
2. 部門事業の実績と課題について	21
【生涯学習部門の個別事業】	22
1. 地域研究交流センター主催事業	22
(1) 観光講座	22
(2) 秋季総合講座	24
2. 地域連携講座事業	25
(1) 日本語・日本文化講座	25
(2) 子育て支援員認定研修会	25
(3) やまなし市民後見人養成基礎講座（第6期）	27
3. 学部共催事業	28
(1) 看護学部「健康講座」	28
(2) 人間福祉学部「保育リカレント講座」	29
(3) 国際政策学部「第2回 山梨政策フォーラム」	30
(4) 国際政策学部「第3回 山梨政策フォーラム」	31

Ⅲ. 地域研究部門	33
1. 部門事業の概要	33
2. 部門事業の実績と課題について	33
(1) 重点テーマ	34
(2) 研究報告会	36
Ⅳ. 教育事業	37
1. 事業の概要	37
2. 事業の実績と課題について	37
(1) 文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」	37
(2) 内閣府「地方と東京圏の学生対流促進事業」	38
(3) 山梨県立大学フューチャーセンター Casa Prisma	39
Ⅴ. 事務局	41
1. 運営委員会記録	41
2. 組織図・委員名簿	45
3. 年間の時系列記録	46
資料	
フライヤー等	50

より深い地域との連携を目指して

地域研究交流センター長 箕浦一哉

山梨県立大学は 2005 年の開学当初から「地域に開かれ、地域と向き合う大学」との理念を掲げています。本センターは学内の 3 学部 5 学科をつなぎ、地域連携を推進していく役割を担っています。本センターの今年度の活動の詳細はこの年報に記載していますが、ここでは今年度の特長的な取り組みをご紹介します。

(1) 重点テーマ研究の開始

地域研究交流センターの地域研究事業として、教員からの提案により実施する「共同研究」に加え、「重点テーマ研究」を新たに設けました。重点テーマ研究は、より地域ニーズに即した研究を重点的・戦略的に実施しようとするもので、そのテーマ選定プロセスの中で地域との対話を行うこととしています。

初めての重点テーマ研究として「穴切地区をモデルとした持続可能なコミュニティにつながる高齢者活動拠点構築」（代表者：青柳暁子・人間福祉学部准教授）が今年度から実施されています。これは本学飯田キャンパスの所在地である甲府市穴切地区において、地域の自治会関係者と協働して実施する研究です。

また、来年度から実施する新規の重点テーマの選定に向け、8 月から 3 月まで 6 回の準備委員会を開催し、時間をかけた検討を行いました。その結果、「多様性ある社会的連携の構築に関する研究：外国につながりのある住民が安心して暮らせる環境づくりに向けて」（代表者：長坂香織・看護学部教授）として研究計画が取りまとめられ、3 学部の教員が参加して研究が実施されることになりました。

(2) 山梨県立大学フューチャーセンターの本格運用開始

地域と大学との協働プロジェクトの活動拠点として「山梨県立大学フューチャーセンター Casa Prisma（カーサ・プリズマ）」を設置し、今年度から本格運用を開始しました。内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」の補助により甲府駅北口の甲州夢小路の 1 棟を借り上げ、多様な地域課題の解決に向けた取組をサポートするための様々な場を提供しました。

(3) 地域実践教育の実施

地域における課題解決などに取り組む実践的な教育プログラムを、行政・企業・住民団体などとの連携のもとで実施しました。これらは文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+事業）および内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」による補助によって実施しました。

(4) 各種公開講座の開催

センター主催講座、学部とセンターの共催講座、自治体等からの受託による講座などを開催し、市民に学びの場を提供しました。なかでもセンター主催で2012年度から実施している「観光講座」は毎年人気が高く、今年度も多くの方々のご参加を賜りました。

本学は2020年に開学15年、法人化10年の節目を迎えます。開学と同時に開設された本センターも同じ年月を刻んできたことになります。センター開設当初、大学と地域の連携は必ずしも当たり前のことではありませんでしたが、今や地域連携の質と量を大学間で競い合う時代となっています。より深い地域連携によって地域の課題解決と大学の研究教育の向上をともに実現できるよう、これまで15年の歩みをふりかえり新しい取り組みにつなげる準備をしているところです。

今年度も本センターの活動にあたっては、多くの方々のご協力を賜りました。みなさまに心から感謝申し上げます。今後ともセンターの活動に関心をお寄せいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

I . 交 流 ・ 発 信 部 門

1. 部門事業の概要

(1) 講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

(2) 教員の地域貢献活動への支援

教員の地域貢献活動への支援依頼に対応した。

(3) 学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、3件のプロジェクトに係る認定・支援を行った。

(4) 大学周辺地域との連携（自治会との連携、防災訓練、健康まつり）

平成28年から大学周辺自治会との懇談会を設けており、今年度も飯田キャンパス周辺の穴切地区、池田キャンパス周辺の池田地区の各自治会長と懇談会を行った。

また本学は池田地区総合防災訓練への参加・協力として池田地区連合自治会主催の総合防災訓練の企画会議から参加し、救護訓練を担当した。穴切地区では同様に穴切地区連合会からの依頼を受け、人間福祉学部の教員と学生が穴切地区総合防災訓練での救護訓練を担当した。

なお、例年看護学部の教員と学生が参加・協力をしている「池田地区健康まつり」はコロナウイルスの影響により今年度は中止となった。

(5) 連携協定に基づく連携

高校大学連携講座の実施

城西高校、身延高校との高大連携講座を継続実施した。

(6) その他の学外団体等との連携・相談窓口

(7) フューチャーセンターの運営

(8) 年報の発行

『2018年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を2019年5月31日付けで発行した。

(9) ウェブサイト、SNSでの情報発信

地域研究交流センターのFacebookを立ち上げ情報発信をすると共に、大学のサイトに地域研究交流センターの情報を掲載した。またtobiraの発刊を中止し、ネットで発信されるスフルに統合した。

(10) 受託事業

2. 部門事業の実績と課題について

地域貢献活動支援や連携事業、ウェブサイト、年報の媒体を用いて学内外への情報発信を行った。

地域貢献活動支援・連携事業については概ね前年度から継続的に行っている。こうした活動は大学の地域貢献に寄与しており、地域の知の拠点のための活動として意義を持っている。

今年度、連携協定の数が増加したことにより、今後は連携協定に基づいた事業が増加すると考えられる。事業増加に伴った体制を図るとともに、前年度からの継続事業に関しても内容の充実が課題である。

発信事業については前年度と同様の体制の下でウェブサイト、年報という媒体により継続的に情報発信活動を行った。こうした情報発信は、事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。昨年度の事業見直しに伴って地域研究交流センターのニューズレター「tobira」は大学ニューズレター「スフル」に統合された。また地域研究交流センターのウェブサイトは今後大学ウェブサイトへの統合が検討されている。

事業縮小の中で、情報発信媒体が統合されても地域研究交流センターの特色を有した情報を発信できる情報発信方法が今後の課題である。さらに的確で効果的な情報発信のために、センター全体のビジョンに基づきつつ、大学全体の広報活動との関係もふまえて、戦略的な情報発信を進めていく必要がある。

(文責：青柳 暁子)

【交流・支援部門の個別事業】

(1) 講師・委員等の応嘱

本学教員は学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。令和元年度の応嘱状況を下の表に示す。

これによれば、全学でのべ件 483 の応嘱があり、内訳は、講義・講演が 286 件、委員等が 133 件、その他が 64 件であった。学部別には、国際政策学部が 46 件、人間福祉学部が 203 件、看護学部が 209 件、職員等が 25 件であった。

なお、本報告における数値は令和 2 年 3 月 9 日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が存在すると考えられる。

表 1 令和元年度の講師・委員等応嘱状況

	依頼内容名			
学部名	講義・講演	委員等	その他	総計
国際政策	7	23	16	46
人間福祉	157	34	12	203
看護	114	62	33	209
職員等	8	14	3	25
総計	286	133	64	483

表 2 令和元年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0
小中学校	0	2	4	0	6
高等学校	3	4	6	3	6
専門学校	0	0	2	0	2
大学・短期大学	1	0	4	0	5
県関係機関	1	18	19	3	41
市区町村	2	69	13	0	84
各種団体	0	8	44	0	52
医療機関・福祉機関等	0	46	17	0	63
省庁等	0	3	0	0	3
その他	0	7	5	2	14
総計	7	157	114	8	286

表3 令和元年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	2	1	0	1	4
大学・短期大学	1	0	0	0	1
県関係機関	11	15	12	7	45
市区町村	3	7	5	1	16
各種団体	3	3	42	1	49
医療機関・福祉機関等	1	6	1	0	8
省庁等	1	1	1	4	7
その他	1	1	1	0	3
総計	23	34	62	14	133

表4 平成30年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校	0	0	0	0	0
県関係機関	2	0	4	2	8
市区町村	0	4	7	0	11
各種団体	12	2	20	0	34
医療機関・福祉機関等	0	6	2	0	8
その他	2	0	0	1	3
総計	16	12	33	3	64

(文責：青柳 暁子)

(2) 教員の地域貢献活動への支援

1) 教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的に行う地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知、実施した。周知したメニューは以下の通りである。

(a) センター「支援事業」の認定・支援

センターの「支援事業」として認定し、報道機関への情報提供、ウェブサイトを通じた広報、本学での学生ボランティア参加者募集等、可能な範囲で支援する。

(b) センター「後援」等の名義の使用

名義使用により、センターがその趣旨等に賛同している旨の対外的表示ができる。

教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意志表明をするにふさわしいものを対象とする。

(c) その他

上記以外の支援メニューについても、今後検討していく。具体的な要望などがあれば相談を受け付ける。

(3) 学生による地域貢献活動への支援

本学の学生または学生団体が地域において実施する事業で、地域に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは本学ウェブサイト公表のほか、センターが可能な支援を行う。

令和元年に選考委員会が開かれ、協議の結果3件のプロジェクトの認定が決定された。選考プロセスは以下のとおりである

(a) 教職員からの推薦

令和元年12月に教職員からの推薦を募った。その結果3件のプロジェクトが推薦された。

(b) 選考委員会による選考

選考委員会において選考を行った。選考委員会のメンバーは、センター長、交流・発信部門委員3名、事務局職員の5名であった。令和元年12月25日に選考委員会が開催され、3件のプロジェクトの認定が決定された。

(c) 認定

認定式が令和2年1月28日12:30～ 飯田キャンパス大会議室にて開催された。

表5 令和元年度 学生優秀プロジェクト 認定一覧

プロジェクト名		実施主体
1	地域で暮らす子どもから高齢者のふれあいを重視した地域看護実践プロジェクト	在宅看護研究会
2	アロマを生かした健康づくり～地域・同僚・そして自分自身へ癒しを～	アロモア（アロマセラピー）サークル
3	そよ風外出支援プロジェクト	渡邊美幸、早川茉智子

(4) 大学周辺地域との連携（地域自治会との連携、防災訓練、健康まつり）

1) 地域自治会との懇談会

大学周辺自治会との懇談会は平成22年度から行われてきた。平成22年から26年までは大学周辺の3自治会との懇談会であったが、平成27年度から2年間休止後、29年度から大学周辺自治会だけでなく、池田・穴切地区の両自治会連合会に参加協力を依頼し、出席可能な自治会会長が参加している。

今年度は池田地区 8 名・穴切地区 9 名の参加があった。

令和元年の地域自治会との懇談会内容は下記のとおりである。

- ・日時：令和元年 11 月 11 日（月）13：00～
- ・場所：飯田キャンパス中会議室
- ・地域自治会出席者：池田地区 8 名、穴切地区 9 名 計 17 名
- 大学側出席者：学長・理事・地域研究交流センター長・交流発信部門長・交流発信部門委員・事務次長・事務方 3 名 計 6 名
- ・議題
 - ・自治会行事等への学生の参加状況について
 - ・地域研究交流センターの今年度事業について
 - ・池田地区と大学との交流について
 - ・穴切地区と大学との交流について
 - ・その他意見交換

2) 鶴巻台西自治会住民と学生の交流

山梨県立大がサークル MOTTAINAI は、平成 24 年 6 月より、県立大学飯田キャンパス近隣（グラウンド南側）の鶴巻台西自治会の高齢者との交流事業を続けている。

令和元年は鶴巻台西自治会の高齢者 5 名、学生 11 名で 7/7 にフォトフレームを使ったステンドグラス作成とクレープづくり・食事を行った。



3) 池田地区総合防災訓練への参加・協力

2019 年度 池田地区総合防災訓練における活動報告

本活動は今年度で 9 回目となり、本学の地域研究交流センター事業において、地域交流・支援の大きな位置づけとなる活動である。本学は協力・指導団体として、事前に池田地区連合自治会長と連絡を取り合いながら、連合自治会主催の総合防災訓練企画会議（10 月 14 日実施）にも参加させて頂いた。今年度より甲府市の防災訓練日が、熱中症者が続出するとの理由より、8 月から 11 月に変更になり、協力可能な学生も 3、4 年生から 1 年生となった。そのような中で、地域住民のニーズに合わせたプログラムでの訓練（応急処置・応急担架訓練）を担当することとなった。

本学教員及び看護学部学生に対して、ポスター・声がけにより、ボランティアとしての参加を募った。訓練を担当する教員へは事前の説明と訓練実施にあたってのデモンストレーションを行った。さらに当日は、4 会場毎の自治会代表者と教員・学生が綿密な打ち合わせを行った上で訓練を実施した。当日の訓練内容は以下のとおりである。

日時：2019 年 11 月 10 日（日）8:30～11:30

場所：池田小学校、西部市民センター、甲府西高等学校、甲府城西高等学校の 4 か所

訓練担当者：本学看護学部 名取学部長と教員計 11 名及び学生（1 年生）10 名

	実施場所							
	池田小学校（本部）		西部市民センター		甲府西高等学校		甲府城西高等学校	
防災訓練	担当教員	◎須田由紀 三澤みのり 塚原まゆみ	担当教員	◎小尾栄子 清水智嘉	担当教員	◎渡邊輝美 高取充祥	担当教員	◎茅野久美 渡邊裕子
	* 4 か所の実施場所のラウンド・調整・・・野澤由美							
	担当学生 （1 年生）	河村佳栄 田辺ひなた	担当学生 （1 年生）	築城孝加子 依田樹	担当学生 （1 年生）	辻乃綾 小倉萌歌 秋山海優	担当学生 （1 年生）	中田命 平塚愛恵 折原永佳

内容

池田地区総合防災訓練には、544 名の地域住民が参加した。訓練への参加者は、池田小学校 119 名、西部市民センター 167 名、甲府西高等学校 95 名、甲府城西高等学校 130 名であった。教員と学生が協働し、全ての会場で「おぼえておこう災害時の応急処置」のパンフレットを住民に配付し、それに基づいて応急処置や応急担架訓練の知識と技術についての指導を行った。身近にあるハンカチやストッキング、雑誌等を活用した止血や創部の固定、レジ袋を代用した三角布の作成等、学生が積極的に入りながら住民同士興味深く体験し合っていた。さらに、応急担架については、住民同士で作成から搬送まで実演していた。住民からは「毎年練習することで身に付くんですね」「早速、災害物品の中にサランラップを入れておきます」「一人暮らしだから、担架は作れないと思いましたが、必要な時には隣近所で協力して作ればよいですね」等の意見が聞かれた。

なお、昨年度までは本学の前期授業科目である「災害支援」の一環として看護学部 1 年生の履修学生全員が防災訓練に参加していたが、今年度からは訓練時期の変更に伴い参加が難しくなった。今年度、防災訓練に参加した 1 年生の学生達は、「災害支援」を履修し、応

急処置方法の技術を十分に修得していたため自信を持って実演できていた。さらに住民と交流することを通して「自分自身も地域住民の一人であることを実感した」「訓練は、毎年積み重ねることが大事」という意見が聞かれた。



4)「池田地区健康祭り」への参加・協力

令和元年度はコロナウイルスの影響により池田地区健康祭りは中止となった。

5) 穴切地区防災訓練への参加・協力

甲府市は昨年まで 8 月に防災訓練を開催していたが、熱中症等の問題により今年度から 11 月に開催されることになった。今年度は 2019 年 11 月 10 日に開催された。

穴切地区においては西中学校と旧穴切小学校において開催された。

防災訓練の中の救急蘇生訓練は西中学校では 8 時半から体育館に集合後に行われ、その後旧穴切小学校で 10 時半に開催され、人間福祉学部の教員（青柳）と地元の介護福祉士ら 2 名によって行った。

今年度は胸骨圧迫を中心に行った。最初に教員が胸骨圧迫のやり方を説明した後、3 班に分かれて実践を行った。参加者は次々と熱心に行い、お互いに教えあったり、尋ねあったりする様子が見られた。

「人工呼吸は必要ないのか」「胸骨圧迫の際に服を脱がすかどうか」「圧迫する速さはどうすればよいか」など、様々な質問が参加者からあった。



6) 「第 22 回山梨チャリティーラン 2019」へのボランティア参加

今年も、障害児のサマーキャンプの資金集めのために 2019 年 6 月 8 日に開催された、「第 22 回山梨チャリティーラン 2019」で、本学国際政策学部・人間福祉学・看護学部の学生 26 名が代走ボランティアとして参加した。

このチャリティーマラソンは、山梨 YMCA・甲府ワイズメンズクラブ・山梨日日新聞・山梨放送などが実施している、県内最大のチャリティーマラソンである。山梨 YMCA からの要請で、寄付企業のゼッケンを付け、代走者として参加した。本学から派遣した学生数は、他大学と比較し群を抜いて多く、主催団体から高い評価を受けた。また人間福祉学部の学生 5 名による、世代間リレーをテーマとしたユニークな仮装が評価され、印伝屋代走チームとして「コスチューム賞」を受賞した。

(文責：吉田 均)

(5) 連携協定に基づく連携

山梨県立大学は以下の団体等と連携協定を結んでいる。

- ・ 甲府商工会議所 (2008 年 3 月)
- ・ 忍野村 (2009 年 3 月)
- ・ 甲府市 (2010 年 4 月)
- ・ 特定非営利活動法人えがおつなげて (2011 年 3 月)
- ・ 株式会社山梨中央銀行 (2012 年 8 月)
- ・ 一般財団法人仲田育成事業財団 (2014 年 7 月)
- ・ 地方独立行政法人山梨県立病院機構 (2014 年 8 月)
- ・ 一般財団法人オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 (2014 年 9 月)
- ・ 株式会社日本政策金融公庫甲府支店 (2016 年 5 月)
- ・ 山梨経済同友会 (2016 年 10 月)
- ・ 山梨県立甲府城西高等学校、山梨県立身延高等学校 (2017 年 1 月)
- ・ 公益財団法人山梨総合研究所、拓殖大学 (2017 年 11 月)
- ・ リコージャパン株式会社販売事業本部山梨支社 (2017 年 11 月)
- ・ 山梨県立農業大学校 (2018 年 3 月)
- ・ 株式会社山梨日日新聞社 (2018 年 3 月)
- ・ 国立大学法人山梨大学、山梨県 (2019 年 5 月)
- ・ 上越教育大学 (2019 年 7 月)
- ・ 国立大学法人山梨大学、公立大学法人都留文科大学、山梨学院大学、山梨英和大学、山梨経済同友会 (2019 年 7 月)

これらの協定先と地域研究交流センターが今年度実施した連携事業は以下の通りである。

1) 甲府城西高等学校高大連携授業（看護・福祉）

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として甲府城西高等学校からの依頼を受け平成 18 年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を、本年度も継続して実施した。看護学部 8 名、人間福祉学部 7 名、計 15 名の教員の協力があつた。教員名とテーマは以下の通りである。

表 6 令和元年 甲府城西高等学校高大連携授業「福祉と看護」

月日	担当教員	講義テーマ
4 月 23 日	川池智子	社会福祉学と社会福祉の仕事の魅力
6 月 11 日	大津雅之	数ある人を支援するための専門職の中におけるソーシャルワーカーの役割—主に社会福祉士という専門職を例にして—
7 月 2 日	高取充祥	救命救急の現場から生かせること
8 月 27 日	茅野久美	高齢者の言動を科学的に理解しよう
9 月 3 日	清水智嘉	ストレスが心身に及ぼす影響とその対処について知ろう
9 月 17 日	大久保ひろ美	看護の基本となる技
10 月 8 日	小田切陽一	肥満予防の大切さ
10 月 15 日	青柳暁子	介護予防について
11 月 5 日	山下恵子	病気を持つ子どもと家族
11 月 12 日	山田勝美	子ども虐待の現状と課題
12 月 3 日	須田由紀	住み慣れた地域で暮らし続けるための保健・看護活動
12 月 10 日	山中達也	人が人を「援助する」ことの意味って何だろう？
12 月 17 日	柳田正明	障害福祉への誘い
1 月 14 日	渡邊由香	妊娠期の看護
1 月 21 日	前川有希子	健康寿命を延ばすために—高齢者の動き方を知る—

2) 身延高校・甲府城西高等学校との高大連携授業

(1) 身延高等学校との高大連携事業

山梨県立大学との連携講座の成果と課題

山梨県立身延高等学校 近藤学

1. 令和元年度高大連携講座の概要

山梨県立大学との「高大連携事業に関する協定書」に基づき、山梨県立大学と本校は 2015 年より連携事業を実施している。昨年度は、「身延で働きたいあなたへ」と題

して、身延高校を卒業したのち身延町に就職を考えている身延高校生のための、就職ガイドブック(A5版フルカラー計16ページ)を制作した。今年度は、昨年度をさらに進めて、「身延で暮らしたいあなたへ」と題して、18歳で就職し、平均寿命で亡くなるまでにどれほどのお金を必要とするのかを調査した。しかし、かかる費用はわかったが、高校生にはあまり実感がわからないので、高校卒業後に直面する一大イベントの“自動車の購入”“一人暮らしの費用”“結婚費用”を中心にどの程度必要になるかを調査した。調査対象は、高校教員とした。

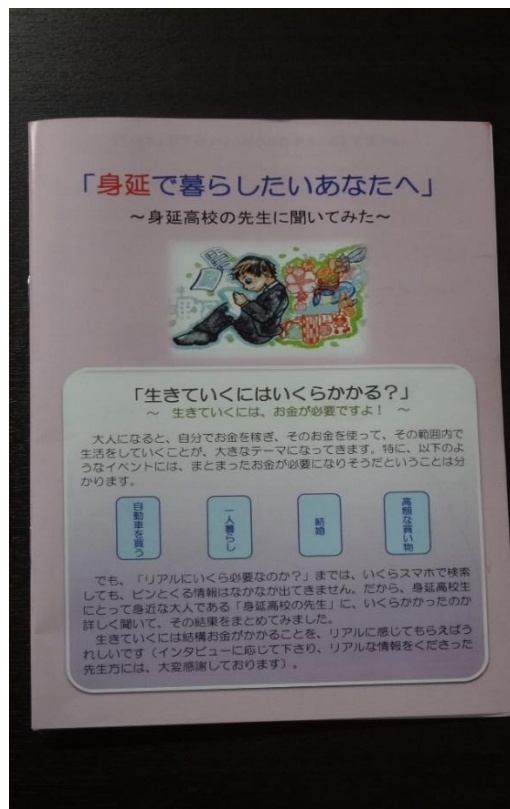
なお山梨県立大学からは、伊藤智基准教授からご指導をいただいた。

2. 各講座の実施内容

日時	活動内容	活動目的
4月23日(火) 高校教員	オリエンテーション 自己紹介 今後の活動の概要説明 講義：街の高齢化の地域経済・社会への影響 宿題：本年度の事業案を考えよう	自己紹介 講座の内容説明
5月14日(火)～ 高校教員	検討会：本年度の事業案を議論 討論会を4回開き、内容を3つに絞る ①昨年度以上の町内企業を訪問し、資料情報を増やす。 ②峡南地域で生活するにあたり、生涯における支出金と補助金を調査し、身延町で豊かな生活を送れるかを調査する。 ③他の門前町と比較してPRできる特徴を考える。	本年度の事業案の 議論・決定
6月13日(木)	講義：活動内容の提案と検討 グループ毎に①～③を提案し、内容の助言を受ける。	
7月16日(火) 高校教員	検討会：活動内容の提案と検討 前回の助言をもとにした、夏休みの活動計画の生徒提案 ③案の提案はなく、事実上①と②の活動になる。	
7月30日(火)	講義：ガイドブック案のプレゼン	
8月～	フィールドワーク	
9月17日(火)	講義：ガイドブック内容検討①	
10月21日(月)	講義：ガイドブック内容検討②	
11月14日(木)	講義：ガイドブック内容検討③	
12月16日(月)	講義：ガイドブック内容検討④	
1月16日(木)	講義：ガイドブック内容検討⑤	
2月	講義：ガイドブック内容検討⑥・入稿準備 ～3月上旬にかけ3回校正	

3月13日(金)	・ 山梨県立大学 での研究報告会 (中止)	まとめ
3月27日(水)	・ 身延町への活動報告会	発表

完成したガイドブック (表紙)



ガイドブックの中身 (一部を拡大)

車を維持する(車って、持っているだけでもお金がかかる!)

「車って、買ったときだけでなく、買った後もお金がかかる」と、大人はよく言います。確かに、ガソリン代(電気自動車なら電気代)がかかることぐらい、高校生でも分かります。しかし、「ガソリンもそうだけど、それだけじゃなくて、もっといろいろお金がかかる」と大人は言います。具体的に何にいくらかかると思いますか? 2ページに登場してくれた身延高校の5人の先生に、その車を買った後、何にいくらかかっているのかを聞いてみました。

	A 20代(男)	B 20代(男)	C 50代(男)
年齢(性別)	ヴェルファイア	ノア	アクア
車の名前			
自動車税	51000	?	34500
車検料	8万	10万	10万
保険料	20万	10万	3万
駐車料	0	0	3000
ガソリン(月)	1.8万	1.5万	1万
冬用タイヤ	12万	?	なし

調査結果から分かったこと・感想

左のページを見ると、車を買うときだけでなく、買った後にも結構なお金がかかることが分かりますね。
このリーフレットの作成を担当してくれた、松永君、小林(愛)さん、小鳥さん、小林(史)さん、柿本さん、山形さんの6人も、いろいろ気付いて感想を持ったみたいですよ。
以下に挙げますので、皆さんも参考にしてください。

【松永】自動車税は、毎年払わなければならないし、かなりの負担になることが分かる。調べたら、以下のとおり、排気量で決まるようだ(以下は、自家用の場合で営業用はこれより安い)。

・1000cc以下	29,500円/年
・1000ccから1500cc以下	34,500円/年
・1500ccから2000cc以下	39,500円/年
・2000ccから2500cc以下	45,000円/年
・2500ccから3000cc以下	51,000円/年
・3000ccから3500cc以下	58,000円/年

【小林(愛)】軽自動車を調べたら、毎年の軽自動車税は、自家用なら10,800円、営業用は6,900円だったよ。税金だけ見ても、軽自動車を買う人の気持ち分かる。

3. 総括——テーマ設定と年度当初の運営について

昨年度の「身延で働きたいあなたへ」では、身延町にはどのような会社が、どのような待遇で働き手を求めている、そこで働く人々にはどのような気持ちで働いているのかをまとめた。結果は、身延町にも働く場所は数多くあり、様々な会社で多くの人々が働いていることを知ることができた。そして、そこで働く人は、それぞれが目的とやりがいをもって働いていることを知ることができた。もちろん、高校生が望むすべての職種はないので、すべての高校生にとっては働く場所はない。

今年度の「身延で暮らしたいあなたへ」は、身延町の会社に就職したとき、どのような生活が可能なのかを調査した。

調査開始時は、「18歳で身延町内の会社に就職し、平均寿命で死亡するまでにどれだけのお金を必要とするのか。」を調査することとした。単なる支出計算だけでなく、町にある様々な補助金制度を組み入れて算出し、身延町での生活を甲府や東京と比較し、どのような生活になるのかを比較検討する内容の学習を計画した。この中で、基本給のベースアップ率が会社や年により異なることや補助金が性別・年齢・所得などの様々な条件で異なることを知り、わかりやすく表記することの難しさを痛感した。しかし、人生のイベント毎にどの程度を支出するかは把握できたので、高校生にとって卒業後に直面する一大イベントの“自動車の購入”“一人暮らしの費用”“結婚費用”を中心にどの程度お金が必要になるかを高校の先生に聞く調査をした。高校教員（地方公務員上級職）なので、労働者の平均的な支出ではないが、話しにくい内容も教えてもらえるメリットを活かした。

昨年度、生徒が身近な課題に目が向けられるようにするため、4・5月に“身延町を知るツアー(町内の観光施設への訪問等)”や“大学での学びを知るツアー(ゼミや研究室、地域貢献サークルの見学等)”を実施するという課題は、今年度も実施できなかった。高校の担当教諭が毎年変更になり、ノウハウを持たない教諭が担当者となることが原因である。毎年の課題である。

(2) 甲府城西高等学校との高大連携事業

2019年度は、「JR 甲府駅」様との連携事業、「富士急バス」様との連携事業の2本立てで行われた。

「JR 甲府駅」様との連携事業では、高校生による甲府駅への訪問と構内の視察（7月12日。高校生1人1人に「高齢者」「旅行者」「障害者」などの立場を割り振り、ロールプレイング形式でそれぞれの視点から甲府駅を視察）を経て、夏休み期間中から11月にかけて高校生が改善提案を作成し、その後、駅員様2名（東日本旅客鉄道株式会社八王子支社 甲府駅 サービスマネージャー）を高校にお招きして、高校生からの提案とそれに対する意見交換を行った（12月23日。以下の写真）。



それを経て、「甲府駅から甲府市観光案内所までの経路の案内（業務時間・案内内容も紹介）」、「新宿方面から特急で富士山方面に向かう予定のお客様が乗り越して甲府駅まで来てしまった際の御案内（大月駅に特急で戻るか、普通電車か、甲府駅からバスで河口湖方面に向かうか、いろいろな手段がある中での的確なご案内をするためのもの）」、「甲府駅周辺のおすすめのお店の紹介パンフレット（2017年に高大連携事業で英語メニューを作成した「生そば 庵」さん、2018年に高大連携事業で英語メニューを作成した「まるごとやまなし館」などを紹介）」といった提案がなされ、いずれも作成に向けての動きはあったものの、それらが甲府駅に設置されるまでには至らず（新型コロナウイルス対策のため、高校生の活動に制限が生じたことも大きな要因である）、この取組みは2020年度に継続することとなった。

「富士急バス」様との連携事業では、同社の甲府駅と富士山駅を結ぶ路線バス区間（甲府駅～石和温泉～県立博物館～河口湖駅～富士急ハイランド～富士山駅）について、外国人利用者向けにバスの案内を改善できることはないかを調査し、提案することとなった。それに向けて、以下のとおり、実際に同路線のバスに乗車して、現地調査を行うことから始まった。同調査では、実際に社員の方やバス運転手の方からお話をうかがうこともできた（バス運転手の方からは、会社から自動翻訳機が支給されているものの翻訳に時間がかかるため、つたない英語であっても身振り手振りで運転手さん自らが対応したほうがよいといった、現場の生の声をうかがうことができた）。

高大連携探究講座校外学習について

甲府城西高校キャリア教育係

山梨県立大学との高大連携講座に関する実地調査を次の通り実施いたします。甲府駅から河口湖へ路線バスで移動する外国人観光客に向けてどのような工夫ができるかを、提案することが目的です。河口湖駅の周辺の様子を見学したり、外国人観光客やバス会社の方々にインタビューをしたりして情報収集を行います。

日 時 8月1日(木) 9:00～16:00

引 率 甲府城西高校 村上吉利、田中知聡、保坂瑞穂
山梨県立大学 伊藤智基

生 徒 富士急バス様との連携事業を担当する2年次生6名

日 程 9:00 甲府駅南口エスカレーター下集合・点呼
9:30 甲府駅発「富士山駅」行きバス乗車
・バス内で外国人観光客がいればインタビューをする
・どのような案内があればよいかを考える
10:48 河口湖駅着
11:00 河口湖周辺研修・昼食
・表示や案内を見る
・外国人観光客にバスの利用についてインタビューをする
13:00 富士急バス株式会社 社員の方々との交流
13:00～13:30
・バスの乗務員の方々へのインタビュー
13:50 バス停集合・点呼
14:08 河口湖駅発「甲府駅南口」行きバス乗車
15:30 甲府駅着

この調査を経て、「同路線のバス車内には、外国語での案内表記がほとんどなく（富士山を周遊する路線では外国人向けの充実した案内がなされているのと対照的であること）、外国人の方にとってバスの乗り方や料金の支払い方が分からないと思われる」ということが把握された（その他、「バスの行き先案内が、甲府駅のバス停の電光掲示ではFJとなっているが、実際にやってきたバスの正面上部の表示はK-2となっており、齟齬がある」点、「車内は禁煙です や 降りるときはボタンを押してくださいというのは日本語のアナウンスのみで、外国語でのアナウンスはなされていない」点、「河口局前というバス停について、外国語アナウンスではkawaguchikyoku となっていて mae が抜けている」点なども調査の結果明らかになった）。これを受けて、高校生のほうでいかなる改善をすれば外国人利用者の利便性が向上するかを考える作業を行い、その結果及び改善提

案を、12月18日に富士急バスの社員様4名（うち取締役様1名も参加）をお招きして高校生がプレゼンテーションするに至った。その結果、高校生の提案を受けて富士急バス様のほうで、英語・中国語・韓国語の案内ステッカーを作成し、3月に高校生が甲府営業所においてバスに実際に貼り付けるという作業を行う予定となった。しかし、新型コロナウイルスの影響により、ステッカーの案が決まった段階で作業はいったん打ち切られることとなった（2020年度以降、終息後に再開の予定である）。

このように「JR 甲府駅」様と「富士急バス」様のご協力のおかげをもって、高校生の提案が具体的に実現する手前まで到達したものの、とりわけ2月下旬以降の新型コロナウイルス対策のため高校生の出校がままならなくなったことを受けて、最後のところで事業の完遂には至らなかった。しかし、「JR 甲府駅」様と「富士急バス」様、両社の皆様には、本事業に熱心に参画していただき、高校生の話を真剣に聞いた上で、実現に向けての具体的な取組みに着手していただいた。この場をもって重ねて御礼を申し上げたい。

（文責：伊藤 智基）

3) 山梨日日新聞社との連携協定

山梨日日新聞社とは2018年に連携協定を結んでいる。2019年度には担当者間での数回の会合を持ち、具体的な連携の検討を進めた。今年度は大学教員と記者・デスクとが交流する機会を作ることとなり、2020年2月25日（火）19:00～20:30に山梨日日新聞社会議室で「大学とメディアの連携のあり方」をテーマとした意見交換会を開催することとした。しかしながら新型コロナ・ウィルスへの対応のため、次年度（時期未定）に延期することとなった。

（文責：箕浦 一哉）

（6）その他の学外団体等との連携・相談窓口

フューチャーセンターCasa Prisma 及び地域研究交流センター事務局である社会連携課にて、教員等への取材依頼や学外団体等との連携案件等の相談業務に対応した。各種案件は地域研究交流センター運営委員へ相談内容が報告され、次年度に向けて県立文化施設や笛吹市ボランティア団体との連携が実施される予定となっている。

（7）フューチャーセンターの運営

IV. 教育事業を参照ください。

（8）年報の発行

この『年報』は、地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センターの活動内容を紹介する際の資料として、あるいは自己点検評価等の資料として活用されている。2009年度までは年度末に発行してきたが、2010年度からは次

年度の 5 月に発行することとした。今年度も、計画通り『2018 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2019 年 5 月 31 日付けで発行することができた。

(文責：青柳 暁子)

(9) ウェブサイト、SNS での情報発信

地域研究交流センターのサイトを置き、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物(年報・報告書・ニューズレター等)、活動記録等、各種の情報発信を行っている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信となっている。また、センターが中心となって行った取り組み(講座・イベント・学生優秀地域プロジェクト等)を、そのつど「活動記録」として情報発信しており、今年度は大学ホームページにおける地域貢献に係る活動の情報発信強化に努めた。

また、引き続きフューチャーセンターCasa Prisma において Facebook による情報発信を行ったほか、地域研究交流センターの各種イベント情報・報告についても同 Facebook ページを活用し、情報発信を行った。今後、地域研究交流センターのサイトは老朽化しているため、アーカイブとして残しつつも、インターネットによる情報発信は Facebook、大学ホームページ内の地域研究交流センターの新規ウェブページによって行う予定である。

また今年度から地域研究交流センターの広報誌 tobira の発刊を中止し、大学広報紙スフルに統合した。スフルは雑誌版とネット版があるが、地域研究交流センターの情報はネット版に組み込まれる予定である。

(文責：青柳 暁子)

(10) 受託事業

地域研究交流センターでは令和元年度、5 件の受託事業の契約及び事業実施を行った。

・ 冬季短期日本語研修 (韓国・ハンバツ大学委託事業)

概要：日本語授業にてフィールドワークで使える実践的な日本語表現を学び、山梨県立大学学生と共に山梨の自然・文化・産業に関するフィールドワークを遂行することで、日本語と山梨についての理解を深める。

実施日：令和 2 年 2 月 5 日～21 日

参加人数：14 名



・『甲州らいふ』作成・編集業務委託（甲州市委託事業）

概要：幅広い視点で甲州市の地域情報・魅力を発信する「甲州市地域情報・魅力発信情報誌『甲州らいふ』」を学生ならではの視点を取り入れながら作成・編集を行う。

※『甲州らいふ』は、社会連携課・フューチャーセンターCasa Prisma 等にて配付している。また、バックナンバー含め「甲州らいふ（甲州市移住支援ポータルサイト）」に web 版が掲載されている。

<https://www.city.koshu.yamanashi.jp/iju/about/koshu-life.html>

発行月：令和 2 年 2 月

発行部数：1 万部



- ・日本語・日本文化講座（甲府市委託事業）
- ・子育て支援員認定研修会（山梨县委託事業）
- ・やまなし市民後見人養成基礎講座（山梨县委託事業）

については、生涯学習部門の報告を参照されたい。

Ⅱ．生涯学習部門

1. 部門事業の概要

(1) 地域研究交流センター主催事業

地域の方々を対象に大学の教育・研究成果発表、及び県民の知的関心に応えるための講演会を企画・開催した。

- ① 観光講座
- ② 秋季総合講座

(2) 地域連携講座事業

地方自治体その他の団体等の委託等を受けて、本学教員が各種講座を企画・実施した。

- ① 日本語・日本文化講座
- ② 子育て支援員認定研修会
- ③ やまなし市民後見人養成基礎講座（第6期）

(3) 学部共催事業

- ① 看護学部「健康講座」
- ② 人間福祉学部「保育リカレント講座」
- ③ 国際政策学部「第2回 山梨政策フォーラム」
- ④ 国際政策学部「第3回 山梨政策フォーラム」

2. 部門事業の実績と課題について

本年度は3区分9種類の事業が企画実施された。複数回シリーズで実施される企画が多く、参加アンケートによると概ね良い評価を得ている。それぞれの講座を担当する講師をはじめ、スタッフとして企画を支えた生涯学習部門委員および共催する地域の団体や自治体の尽力に対して謝意を表したい。

【生涯学習部門の個別事業】

1. 地域研究交流センター主催事業

(1) 観光講座

- ① テーマ：「山梨のユニークな歴史・文化と自然変遷」
- ② 趣旨：山梨県内には自然及び人文分野のいずれにおいても、第一級品が豊富に存在し、観光資源としても寄与しています。これらの特徴や成り立ちなどにつき、本年度は、「山梨のユニークな歴史・文化と自然変遷」と題するテーマで、多分野から話題を提供していただき、例年のように県立大学講堂で座学の形式で4回を講演形式で行い、さらに最終回には観光講座としては昨年続く企画になる、現地視察を実施しました。
- ③ 対象：一般県民
- ④ 講演内容と参加者数：
第一回：令和元年8月4日(午後1時～午後4時半) [参加者 58名]
1—1：富士北麓の世界文化遺産と鎌倉街道・・・杉本悠樹(富士河口湖町教育委員会)
1—2：富士山麓の洞穴—信仰と産業—・・・・・・新津 健(山梨県考古学協会)

第二回：令和元年9月1日(午後1時～午後4時半) [参加者 62名]
2—1：富士山の地下水特性と富士山麓の水循環・・・・・・興水達司(山梨県立大学)
2—2：西湖におけるクニマスの発見から最新研究まで・・・青柳敏裕
(山梨県水産技術センター)

第三回：令和元年9月8日(午後1時～午後4時半) [参加者 62名]
3—1：山梨の堰堤遺産と近年の土砂災害・・・萬徳昌昭(国土交通省富士川砂防務所)
3—2：早川町の自然資源を活用した地域活性化・・・・・・大西信正(ヘルシー美里)

第四回：令和元年10月6日(午後1時～午後4時半) [参加者 74名]
4—1：甲武信ユネスコエコパークの魅力と取り組み・・・・・・村山 力
(山梨県立武田の杜サービスセンター)
4—2：山梨の道祖神—石造物と祭り—・・・・・・丸尾依子(山梨県立博物館)

第五回：令和元年10月20日(午前9時～午後4時半) [参加者 57名]
観察会：バス2台にて講座参加者と現地視察(富士山方面)
・・・・・・自然系の解説(興水達司：山梨県立大学)
・・・・・・人文系の解説(新津 健：山梨県考古学協会)
- ⑤ 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂
- ⑥ 実施状況：8月4日から10月20日まで5回の講座には、延べ313名の参加を数え、平均参加者数として63名になりました。このうち、5回目の現地視察について昨年

度の場合には、バス一台の定員という制約もあって、希望者の中で抽選によって参加者を決定したため、抽選に漏れた方には、希望に添えられませんでした。そこで、今年度は当初からバス二台で計画し実施しました。この5回目の現地視察も含め、全体を通して、特に動員を促すことなく、このように概して多くの参加があった背景には、このシリーズで実施してきた「富士山の世界遺産講座」や「南アルプス講座」の場合と同様に、科学的並びに学術的に価値の高い自然・文化が我々の身近にあり、これらを題材に取り入れたことで、県民に興味・関心を抱かせたのかも知れません。

⑦ 参加者の感想

＊はじめて受講し、専門的に研究された講師の話と、レジュメがあり大いに勉強になりました。レジュメを参考に引き続き読み返したいと思います。本企画をされた大学に感謝です。

＊鎌倉街道についての歴史的経過や役割など思いめぐらすことができとても面白かった。

＊富岳風穴が蚕種保存場所ということ、この講演会で初めて知って驚いた。本当に参考になる話でよかった。

＊地元山梨の歴史を知ることができました。科学的・歴史的・地質学的視点に立った内容で面白く聴けました。

＊一連の講演を聞きながら、若い方やいろいろな方にも知っていただきたいお話なので広く広報し、定期的に開催していただきたいです。

＊富士五湖の水の真実を知り驚きました。クニマスについて尊いお話を聞けました。さらなる研究を期待しています。

＊インフラツーリズムが防災意識の立場に役立つとしたならそれは素晴らしい事だと思う。

＊早川町の自然資源がその資質に益々発揮されるよう大いに期待します。

＊山梨の堰堤遺産等非常に関心があり、災害の多い昨今、先人の苦勞と現在の努力が理解できた。

＊山梨は自然豊かな南アルプス、甲武信エコパークや“富士の文化遺産”に囲まれ、盆地の生活は民俗学の豊かな歴史が息づき、とてもドラマチックな環境であることを再発見できました。ありがとうございました。

＊普段聞かない貴重なお話、大変勉強になりました。今後ともチャンスがあったら聞きたいです。

＊専門の先生の解説をお聞きしながらの視察は大変良かったです。今まで写真でしか見ていなかった噴火口に立ち壮大なスケールに驚きました。富士山信仰の3つに興味深かったです。

＊初体験の箇所ばかりだったので、良い経験になりました。山梨に住んでいても知らないことが多いので、機会があれば参加していきたいと思いました。

＊自然分野、人文分野のご説明で、歴史が立体的に見えるようになりました。

＊この講座を通して興味深く伺い、この講座の知見を山梨の観光にもっと生かせないかと思った。

＊この講座を通して興味深く伺い、この講座の知見を山梨の観光にもっと生かせないかと思った。

＊バス２台になったことで、同乗した先生の話は聞けましたが、他方の先生のお話は伺えなかったので、お二人そろって説明してくださる時間をもっと取ってほしかった。

＊エコパークの関係では、臨地研修の機会があると参加者も多いのではないのでしょうか。（有料でも）

＊来年も野外講座を入れてください。

＊開催日を平日にしてもいいと思います。先生方の都合もあると思いますが、土日は他のイベントとも重なってしまうことがあります。

⑧ 講座内容の情報公開：

今回の講演会および観察会の内容は報告書として本年度中に完成予定で作業を進め、同時に山梨県立大学（地域研究交流センター）のホームページには、このPDF版をアップする計画です。今回の観光講座につき、多くの県民がこの企画に関心を持たれ足を運んで頂いた経緯から、この企画が県内観光推進の貢献になれば、と願って実施状況の報告とします。

（文責：興水 達司）

（２）秋季総合講座

① テーマ 「よりよく学び 生きるために」

② 日 時 令和元年９月１６日（月・祝）

③ 場 所 山梨県立大学 飯田キャンパス サテライト教室

④ 参加者 延べ 59 名

⑤ 内 容

1. 「元号 令和を導いた『萬葉集』を読む」（国際政策学部・二戸麻砂彦先生）

年号「令和」の出典にちなんで、『萬葉集』巻五に収載された「梅花歌卅二首」を当時の情景や貴族の気持ちを思い起こしながら読み進めました。

2. 「がん予防と免疫力～その人の持てる力を生かすケア～」（看護学部・前澤美代子先生）

私たちの身体から毎日、発生する「がん細胞」を破壊する免疫をどう高めることができるのか。アロマセラピー、ストレッチ、深呼吸、マッサージなどもまじえながら、盛りだくさんのお話をさせていただきました。

3. 「植物の力で笑顔あふれる地域に」（人間福祉学部・前川有希子先生、元非常勤講師・五味武彦先生）

植物を活用したワークショップは今回で3回目になります。芝についての五味先生の解説に続き、参加したみなさんが芝の種を土にまき形を整え、人形づくりを楽しみました。

⑥ 総括：

2. 地域連携講座

（１）日本語・日本文化講座

- ① 目的：甲府市内在住外国人のためのレベル別日本語教室
- ② 日時：令和元年5月～令和2年3月までの毎週日曜（13時～15時）
- ③ 場所：山梨県立大学飯田キャンパス
- ④ 内容：文法、会話、作文、朗唱、質疑応答、文化講座「和太鼓」「書道」など
- ⑤ 主催：山梨県立大学、甲府市
- ⑥ 実施状況

参加者（延べ）：237名

参加者の内訳：15の国・地域

ベトナム80、中国37、台湾36、ペルー27、ブラジル26、アメリカ／ボリビア6、スリランカ／イギリス4、フィリピン3、香港／リトアニア／パキスタン2、トリニダード・トバゴ／カナダ1

（２）子育て支援員認定研修会

- ① 目的：
地域において子育て支援の仕事に関心を持ち、子育て支援分野への各事業等に従事することを希望する方に対し、必要となる知識や技能等を習得するための全国共通の子育て支援研修制度が創設されました。本研修は、これらの支援の担い手となる子育て支援員を養成することを目的としています。
- ② 実施日：
基本研修：令和元年8月4日、10日の2日間
専門研修：令和元年8月26日、27日、28日、29日、9月27日、28日
- ③ 実施場所：山梨県立大学 飯田キャンパス
- ④ 主催：山梨県立大学、山梨県
- ⑤ 実施内容：

A【基本研修】
子ども・子育て家庭の現状
子ども家庭福祉
子どもの発達
保育の原理
対人援助の価値と倫理
子ども虐待と社会的養護
子どもの障害
総合演習
B【専門研修】－（地域保育コース共通）
乳幼児の生活と遊び
乳幼児の発達と心理
乳幼児の食事と栄養
小児保健Ⅰ
小児保健Ⅱ
心肺蘇生法
地域保育の環境整備
安全の確保とリスクマネジメント
保育者の職業倫理と配慮事項
特別に配慮を要する子どもへの対応（0～2歳児）
グループ討議
実施自治体の制度について（任意）
C【専門研修】－（地域型保育）
地域型保育の概要
地域型保育の保育内容
地域型保育の運営
地域型保育における保護者への対応
見学実習オリエンテーション
見学実習（講義・演習に代える）

⑥ 参加人数：

- ・ 基本研修 52名（8月4日：52名 8月10日：50名）
- ・ 専門研修 53名（8月26日：51名 8月27日：53名 8月28日：53名
8月29日：52名 9月27日：52名 9月28日：48名）

⑦ その他：アンケート（習熟度調査）

基本研修最終日出席した受講者 52名と専門研修最終日に出席した受講者 53名に対して、それぞれアンケート形式にて習熟度の調査を行った。

（文責：兼清 慎一）

（3）やまなし市民後見人養成基礎講座（第6期）

① 概要

【第1回】令和元年 11 月 30 日（土）イントロダクション12:00～16:30（開場11:30）

開講挨拶・イントロダクション 山梨県立大学 澁谷彰久

「市民後見人の概要と地域における後見人の役割」

講師：リーガルサポート山梨 小林 恵 氏（司法書士）

【第2回】令和元年 12 月 7 日（土）13:00～16:30（開場12:30）

「後見制度と民法」

講師：松本 成輔 氏（弁護士）

【第3回】令和元年 12 月 14（土）13:00～16:30（開場12:30）

「社会福祉協議会等の活動からみた市民後見」

講師：宮沢 秀一 氏（社会福祉士）

【第4回】令和元年 12 月 21 日（土）13:00～16:30（開場12:30）

「障害者への理解と市民後見活動」

講師：柳田 正明 氏（山梨県立大学人間福祉学部教授）

NPO 法人みつばのくろーばー 堀内 直也 氏（社会福祉士・介護福祉士）

【第5回】令和 2 年 2 月 1 日（土）13:00～16:30（開場12:30）

「高齢者の理解と対応方法」

講師：小山 尚美 氏（山梨県立大学看護学部准教授）

【第6回】令和 2 年 2 月 8 日（土）13:00～16:30（開場12:30）

「地域に根差す市民後見人誕生に向けて」

講師：山口 綾 氏(甲府市家庭裁判所 主任書記官)

高野 由佳 氏(甲府市役所福祉保健部長寿支援室 主事)

二塚 綾 氏(甲府市社会福祉協議会)

甲府市市民後見人の方々

司会：小林 恵 氏(司法書士)

修了式 司会：山梨県立大学 澁谷彰久

② 場 所

山梨県立大学飯田キャンパス C101教室(C館1階)

〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1

③ 成 果

本年度は上記講座を開講し、22名の受講生が研修修了した。平成 25 年度より地域連携の一環として人材育成に取り組み、1期からこの6年間で延べ187名の受講生が修了している。

一作年度から、山梨県の受託事業となり、また、甲府市の市民後見人養成と連携した講義内容としている。山梨市など複数の県内市町村で基礎講座として本講座を導入し、または、検討されている。今後、市民後見人を地域で養成するために必要な基礎知識の習得を目的とした養成講座として、他の市町村への拡大が期待される。

成年後見制度は、現在、新たな利用促進基本計画を各自治体で策定することが求められ、後見人の役割を地域で担うものとして「市民後見人」の養成は、高齢化と人口減少が進む県内において、これからも大学の重要な役割と考えられる。

(文責：澁谷 彰久)

3. 学部共催事業

(1) 健康講座(看護学部)

- ① テーマ：お子さんからシニアの方まで、みんなで楽しくウォーキング！
- ② 趣旨：ウォーキング講座を通し、参加者が運動による爽快感を得るとともに、自己の健康を振り返ることで健康意識を高め、日常に運動習慣を取り入れようと実感できること。さらには、幅広い年代・地域の住民に参加していただき、多世代間での交流を図ることで、住民同士の親睦が深まることを期待している。
- ③ 開催日：令和元年 12 月 7 日(土) 9：30～11：45
- ④ 場所：山梨県立大学池田キャンパス体育館、荒川サイクリングロード
- ⑤ 主催：山梨県立大学看護学部、池田地区保健計画推進協議会
- ⑥ 講師：K2 ライフサポート 木村清先生 加藤未来先生
- ⑦ 参加者：99 名

(池田地区大人 66 名、その他の地区大人 7 名、子ども 3 名、大学生 15 名、教員 8 名)

＜学生ボランティア：橘田穂乃果、山田安衣香、望月郁葉、勝俣朱耶香、菅野葵、田島佳奈、中田綾音、橋本伊代、石川竜也、佐藤柚輝＞＜参加教員：名取初美、村松照美、渡邊裕子、小尾栄子、野澤由美、須田由紀、岡千尋、茅野久美＞

- ⑧ 実施状況：当初、講座の後半は荒川サイクリングロードをウォーキングする予定であったが、当日は気温が低かったことから、参加者の体調への影響を考慮し、屋内のみでの講座に変更した。講座の始めには、ストレッチや軽運動に加え、脳トレを組み込んだ複雑な運動や、参加者同士が交流できる準備運動が行われ、和やかな雰囲気となった。その後、歩き方のポイント、歩幅や脈拍数の計測、運動強度を把握するための目安など、実際に測定しながら実感を伴って学ぶことができていた。後半は屋内にてウォーキングを行い、参加者同士でコミュニケーションを図り、楽しみながら運動することができた。アンケートの結果（42 人、回収率 42.4%）、講座の前に運動習慣のある人は 27 人（64.3%）であったが、今後、ウォーキングをしたい・時間があればしたいと回答した人が 40 人（95.2%）みられ、運動意識が高まったことが伺えた。感想では「学生さんと話しながらウォーキングで楽しかった」等、交流を楽しみながら運動することができたという意見がみられた。また、「参加して本当に良かった」「他の人にも知らせたい」「また参加したい」など、今後も参加を希望する声も多く聞かれ、健康講座を今後も継続していくことの意義が感じられた。
- ⑨ 今後の課題：今年度は 12 月の開催となったが、気温や感染予防を考慮すると、秋季が望ましい。地域との連携を深めつつ開催時期について検討していく必要がある。また、幅広い年代や地域から参加していただくことが課題となる。そのため、講座の趣旨が伝わるよう工夫し、メディアの活用等、周知方法を検討していくことが必要である。



（２）人間福祉学部「第 10 回子育て支援フォーラム」

① 実施要項：

子育て支援フォーラムは「ニッポン発見！能楽の世界へようこそ」と題して、国能楽堂の「能楽体験教室」制度を活用して、4 名の能楽の楽器演奏者に出演いただき、さらに能楽シテ方 2 名とともに、能楽の実演・体験を提供した。型の演奏会を開催した。「観る体験」「触れる体験」をとおして、現代にも息づく「伝統芸能を

実感する」ミュージカルワークショップとして、幼児・小学生、子育て支援関係者、保育・教育関係者、学生、一般に広く呼び掛けた。

人間形成学科3年生には、事前に来場予定の子どもたちの発達を考慮した環境整備を準備し、当日は子どもたちの体験補助にあたった。また能「土蜘蛛」の話は6名のプロの出演者とともに学生たちが謡担当として出演し、授業成果を披露した。当日のプログラムは、舞囃子「高砂」・能「土蜘蛛」の実演、楽器体験で笛・小鼓・大鼓・太鼓の体験、能面体験、謡曲「高砂や」を指導いただき合唱体験をした。

② 日時：2019年12月21日（土）13：30～15：30

③ 場所：山梨県立大学飯田キャンパス 講堂参加者数91名（（内訳）本学学生61名、教員5名、職員4名、学外者11（+子ども10）名）

④ 参加者の感想

- ・子ども連れでコンサートに行く機会が持てないのでとても良い企画（幼児の保護者）
- ・ふだん触れないような楽器や面に触れてうれしかったです。とても楽しかったです。（職員）
- ・体験ができて、子供たちも大変満足したようです。楽しく過ごすことができました。伝統文化を身近に知る良い機会となりました。（小学生の保護者）
- ・初めて日本の伝統に触れ感動いたしました。子供は幼く初めは怖がっていましたが、太鼓などに触れ大変よい機会となりました。また能を観たいと思います。（幼児の保護者）
- ・昔の文化芸能を子供たちに伝えていってほしい。それらの中には大切なしぐさ、扱い、生き方が残されていると思う。（一般）
- ・とても楽しく能を体験することができてよかった。楽器の体験も、先生方が優しく楽しく教えてくださり、楽しむことができた。実演を見て、かつこいい！！と思った。（2年生）
- ・プロの方々と一緒にうたえたこと本当に良い経験になった。早い時間からお越しいただき、ありがたかったし、とても楽しかった。（3年生）
- ・能楽で謡として出させて頂き、とても光栄。一生に一度の経験だったと思うので、今回のことを忘れず、将来仕事に就いた時に活かせるようにしていきたい。（3年生）

（文責：村木 洋子）

（3）国際政策学部「第2回山梨政策フォーラム～甲府市の地域公共交通の現状と課題～交通ミニマムの確保と持続可能な地域公共交通のデザイン～」

① 実施概要：

山梨政策フォーラムは、山梨県が直面している様々な政策課題を取り上げ、課題の原因と現状、解決方法などを共有する場として2018年から開催されている。第2

回は、地域公共交通を取り上げ、市民・行政・学者がパネリストに迎え、利用者の縮小がもたらす負のスパイラルに陥っている山梨県の地域公共交通のあり方について議論した。

② 日時：2019年7月4日（木） 13:00～16:10

③ 場所：山梨県立大学飯田キャンパスA館6階サテライト教室

④ プログラム

13:00～13:10 開催挨拶 八代 一浩氏（本学国際政策学部教授・学部長）

13:10～13:50 講演1 申 龍徹氏（本学国際政策学部准教授）

「地域公共交通政策の動向について」

13:50～14:30 講演2 土橋 克己氏（甲府市交通政策課長補佐）

「甲府市の地域公共交通政策の現状と課題について」

14:50～16:10 パネルディスカッション

「交通ミニマムの確保と持続可能な地域公共交通のデザイン」

福島 敏三氏（甲府城南商店街振興組合理事長）

土橋 克己氏（甲府市交通政策課長補佐）

石井 信行氏（山梨大学工学部准教授）

申 龍徹氏（本学国際政策学部准教授）

コーディネーター 熊谷 隆一氏（本学国際政策学部教授）

⑤ 参加者：約50名

（４） 国際政策学部「第3回 山梨政策フォーラム～もっと魅力あふれる自治体議会に向けて-議員報酬の適正化と担い手の確保～」

① 実施概要：

山梨政策フォーラムは、山梨県が直面している様々な政策課題を取り上げ、課題の原因と現状、解決方法などを共有する場として2018年から開催されている。第3回では、担い手の不足が心配されている自治体議会の活性化策について現役の自治体議員をパネリストに迎え、議員の報酬適正化や担い手確保のための実行可能な政策対案について議論を交わした。

② 日時：2019年11月7日（木） 13:00～16:15

③ 場所：山梨県立大学飯田キャンパスA館6階サテライト教室

④ プログラム

13:00～13:10 開催挨拶 八代一浩氏（本学国際政策学部長、教授）

13:10～13:50 講演1 長澤 健氏（富士川町議会議員）

「議員報酬の適正化について」

13:50～14:30 講演2 中村勝彦氏（甲州市議会議員）

「議員の担い手不足について」

14:50～16:10 パネルディスカッション

「もっと魅力あふれる自治体議会に向けて」

長澤 健氏（富士川町議会議員）

中村勝彦氏（甲州市議会議員）

神山玄太氏（甲府市議会議員）

コーディネーター 澁谷彰久氏（本学国際政策学部教授）

⑤ 参加者：約 50 名

（文責：申 龍徹）

Ⅲ．地域研究部門

1. 部門事業の概要

地域研究交流センター（以下、「センター」という。）では、地域の現代的ニーズを踏まえた課題解決につながる研究、地域文化の発掘と活用、地域文化の創造につながる研究、地域に貢献する特色ある教育に関する研究を、3学部・研究科の教員から参加を募り、実施している。研究事業には、センターが重点的に取り組む必要があると認め、複数学部の教員が参加するプロジェクト研究と、それ以外で地域貢献に資する共同研究がある。

本部門はこの事業の実施のために、企画、募集、選考、予算決定、研究進捗管理、報告書作成、研究報告会開催、評価などに関わった。

2. 部門事業の実績と課題について

今年度当初、本部門事業の事業計画を行った。本部門事業は主に重点テーマと共同研究の2つに分けて行ってきた。

○重点テーマ：「Miraiサロン」（地域との対話の場）を開催し、関心のある山梨県立大学教職員（以下「本学教職員」という。）が集い、地域から寄せられた喫緊の課題解決の要望に対して、学部・分掌を超え地域とともに課題解決に向かい、そのプロセスから、将来、地域主導型へ移行できることを目指した協働研究で、次の条件のすべてを満たしたものをいう。

- （１） 「Mirai サロン」（地域との対話の場）は、前々年の12月から前年の11月までに開催され、かつ、関心のある本学教職員が一度でも集ったものであること。
- （２） 地域から寄せられた喫緊の課題解決の要望であるとともに、同条第1項第1号から第4号のいずれかに該当する研究であることを前提とし、研究に参加する者が、学部・分掌を超えていること。
- （３） 地域とともに課題の解決に向かい、そのプロセスから、将来、地域主導型へ移行できることを目指した研究であること。

○共同研究：次の各号のいずれかに該当する研究（以下「地域研究」という。）であって、複数の学部の所属教員又は学外の研究者が参加し、かつ、センターが研究経費の支援、成果の発信及び実践その他の事務について支援を行う必要があると認めるものを目的として実施する。

- （１） 地域の現代的ニーズを踏まえた課題解決につながる研究
- （２） 地域文化の発掘と継承、創造につながる研究
- （３） 地域に貢献する特色ある教育に関する研究
- （４） その他地域貢献に資すると認められる研究

(1) 重点テーマ

○「穴切地区をモデルとした持続可能なコミュニティにつながる高齢者活動拠点構築」

研究目的

穴切地区の高齢住民の持続可能な活動拠点構築・活動プロセスの明確化

研究メンバー

山梨県立大学 青柳 暁子、杉山 歩、安藤 勝洋、高木 寛之

穴切地区自治会連合会長 相吉 泰夫

鶴巻台東自治会長 山梨大学名誉教授 鈴木 嘉彦

2019 年度の活動

研究メンバーを持続可能コミュニティ研究会とし、この持続可能コミュニティ研究会と穴切地区自治会連合会長、愛育会会長、シニアクラブ会長、文化協会会長、文化協会事務局長、体育協会会長、食生活推進員長、甲府市福祉保健部、甲府市まちづくり部空き家対策課、甲府市社会福祉協議会をメンバーとした

会議名	イベント
5 月 10 日（持続可能コミュニティ研究会会議）	
5 月 31 日（モデル拠点構築検討会）	
6 月 14 日（持続可能コミュニティ研究会会議）	
7 月 5 日（持続可能コミュニティ研究会会議）	
7 月 31 日（モデル拠点構築検討会）	
8 月 29 日（持続可能コミュニティ研究会会議）	
	9 月 5 日（中間発表会）
10 月 1 日（持続可能コミュニティ研究会会議）	
	11 月 17 日（カフェと住民意見ヒアリング）
12 月 6 日（持続可能コミュニティ研究会会議）	
	1 月 21 日 （甲府市社会福祉協議会との意見交換会）
	2 月 18 日（甲府市福祉保健部との意見交換会）
	3 月 1 日（高齢者の拠点試行）

当初の計画では地域の各団体代表者を通じて団体メンバーが自発的に活動することを期待したが、会議の過程で高齢化と多忙により活動への参加が困難であることが明確になり、研究会の方針として住民の小さな集まりに働きかけて少しずつ形をつくっていく方向に転換した。2020 年度の研究では拠点活動の試行を繰り返し後、活動開始し、試行から活動までのプロセスについて明らかにしたい。

（文責：青柳 暁子）

○新規申請に向けた「重点テーマ」申請の在り方について

また、今年度より「重点テーマ」が1件動いている中、これまでの経緯を踏まえ、本センターが主導する「重点テーマ」の在り方を再度検討することとした。

その際、新たに「重点テーマ準備委員会」を組織し、本センターでの「重点テーマ」担当である地域研究部門員をはじめ、本センター運営委員、さらに「重点テーマ」に関心のある本センター運営委員以外の教員も参加を募り、検討を進めてきた。

これまでの新「重点テーマ」申請に至るまでの経緯をここに記す。

・8/9（金）10:40～本センター研修室にて「第1回重点テーマ準備委員会」

今年度の「重点テーマ」選定経緯を踏まえて、これからの新たな「重点テーマ」選定の在り方について、過去のセンター共同研究事業をはじめ県の重点施策、県庁組織の分掌や各教員の関心事項や実績を踏まえて、重点テーマ研究の候補となる研究領域のリストづくりを行うこととした。今後は、作成された研究領域のリストから、重要性を評価し、領域の優先順位を検討し、領域を決めた上で Mirai サロンを開き、具体的な研究テーマを決めることを想定した。

・10/15（火）18:00～本センター研修室にて「第2回重点テーマ準備委員会」

前回の話し合いをもとに、次年度の「重点テーマ」の方向性を検討するとともに、本学以外の有識者から意見を伺う Mirai サロンを実施することとした。

・11/19（火）18:00～大会議室にて「Mirai サロン」

仮テーマ「共生社会を目指して－社会的支援の充実を考える」と題し、外国人支援、子育て支援、障害者福祉に関する有識者や団体など地域の人々、さらにこのテーマに関心のある教員が集い、意見交換を行った。

・11/26（火）18:10～本センター研修室にて「第3回重点テーマ準備委員会」

「Mirai サロン」を受けて、「外国籍児童による社会的支援」を仮テーマとして2年間の研究を視野に行う方向性が見えてきた。

・1/21（水）14:50～本センター研修室にて「第4回重点テーマ準備委員会」

これまでの経緯を踏まえ、再度関心のある教員を参集していただき、仮テーマにおける意見を交換し合った。

・2/19（水）10:00～本センター研修室にて「第5回重点テーマ準備委員会」

本センターの方で前回までの流れからあらかじめ申請案を作成し、これをもとに「研究代表者」の選定をはじめ、「研究テーマ」の仮決定や「研究テーマの背景・目的」、「研究方法と手順」を中心について検討を行った。

・3/3（火）15:00～本センター研修室にて「第6回重点テーマ準備委員会」

前回までの流れから修正された申請案をもとに、実際に申請に向けて「研究テーマ」の決定をはじめ、「研究代表者及び共同研究者の役割」、「研究テーマの背景・目的」、「研究方法と手順」を中心について検討を重ね、完成に近づけていった。

これらを経て、「申請書」を作成し、今回は新型コロナウイルス感染予防対策のため、3/13（金）は「選定委員会」をメール会議にて承認を得た。

(2) 研究報告会…今年度中止

今年度の早い段階で、前年度に行われたセンター地域研究事業に係る評価を実施した。評価は評価委員会（担当理事（1名）、各学部長（3名）、センター長、センター地域研究部門長の学内委員5名と学外委員1名の計6名）により行われた。学外委員には（公財）山梨総合研究所専務理事に就任いただいた。評価結果は、当該研究の代表者が引き続きセンター地域研究事業に応募した場合の研究の選考の参考とした。

今年度のセンター地域研究事業については、学内公募を行い、7件の応募があり、選考委員会による審査を経て、次に示す6件が採択され、実施された。

- ・ 山梨県の小学校英語教育のさらなる充実を目指す研究（代表：高野 美千代）
- ・ 甲府市における果実(フルーツ) 産業の現状・課題及び情報発信（代表：安達 義通）
- ・ 対人援助専門職者のためのサポートシステム構築をめざして
～セルフヘルプグループ体験等教育プログラムの試行的実践～（代表：山中 達也）
- ・ 介護施設における移動・移乗用福祉用具の活用と普及に関する研究
（代表：前川 有希子）
- ・ 日本語指導が必要な外国人児童生徒のライフチャンス
—高校進学から卒業までの支援体制構築に向けて—（代表：萩原 孝恵）

その後11月中旬に中間報告を経て、翌年1月末に「報告書」を提出した。3月13日（金）に「研究報告会」を予定していたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため中止した。さらに、同下旬に「完了報告書」を作成ののち、翌年度4月上旬に「評価委員会」を開催して研究評価を総括していきたい。

○課題：

- ・ 本センターが求めている「研究」とはどのようなものを目指すのかを明確にする。
- ・ 「共同研究」と「重点テーマ」の意義の明確化を図る。

（文責：里見 達也）

IV . 教 育 事 業

1. 事業の概要

地域研究交流センター（以下、「センター」という。）では、地域を活性化するための補助事業として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」や「地方と東京圏の大学生対流促進事業」を行っている。

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」では、学生にとって魅力のある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育プログラムを実施している。

「地方と東京圏の大学生対流促進事業」では、地方にひとの流れを作る仕組みを構築するために甲府の北口に拠点（CasaPrisma）を整備し、拓殖大学との協力のもと地方の魅力を伝える Mirai プロジェクト+を実施している。

2. 事業の実績と課題について

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

山梨県内 8 大学(山梨大学、山梨県立大学、山梨学院大学、身延山大学、山梨英和大学、大月短期大学、山梨学院短期大学、帝京学園短期大学)では、今日の地域社会が直面する課題に取り組むことを通じて、自ら新しい未来を切り開くことのできる創造的人材を育成することを目的に、平成 28 年度より「やまなし未来創造教育プログラム」を開講してきた。この中で本学は、地域教養と子育て支援の幹事大学として、科目提供や各種イベントの実施支援などを行った。

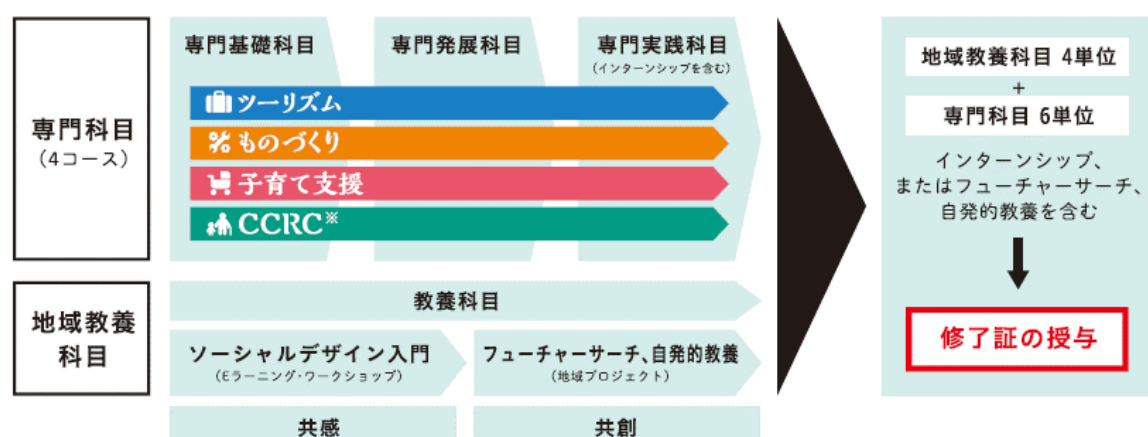


図:やまなし未来創造教育プログラムの概要

表 令和元年度における本学の教育プログラム登録者数

	ツーリズム	子育て支援	CCRC	合計
1 年	27	33	99	159
2 年	1			1
3 年	1			1
4 年		2		2
合計	29	35	99	163

内閣府「地方と東京圏の学生対流促進事業」

山梨県内各地をフィールドに、本学と拓殖大学が連携しながら、授業科目を通じて、以下の 7 つの Mirai プロジェクト+を実施した。本学からは延べ 162 名の学生が参加し、地元企業・団体と協働により与えられた課題に取り組むことを通じて、専門性を磨くとともに、社会人として求められる様々な力(社会人基礎力)を身につけることができた。

表 令和元年度における Mirai プロジェクト+

プロジェクト名	授業科目	
	県立大	拓殖大
1. 産学連携した新しい山梨のお土産開発プロジェクト	国際政策課題演習Ⅰ・Ⅱ(安達) 国際政策演習Ⅰ・Ⅱ(八代)	徳永達己ゼミナール
2. まちづくり合同ゼミ「新しい地方創生のカたちづくり」プロジェクト	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ 地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(杉山)	徳永達己ゼミナール (2年～4年合同)
3. 最先端の農業技術導入に向けた農家連携プロジェクト	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ 地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(兼清)	農業入門演習Ⅰ(竹下)
4. 空き家で「つながる住まい」プロジェクト	—	国際特別講座 (実践のまちづくりⅠ)(徳永)
5. 芦川活性化えんさプロジェクト	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ 地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(安藤)	デザインプロジェクト・演習 (工藤)
6. 笛吹市ひみね地区活性化プロジェクト	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ、 地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(杉山)	国際特別講座 (実践のまちづくりⅠ)(徳永)
7. Lab Prisma プロジェクト	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ 地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(兼清)	デザインプロジェクト・演習 (永見・森岡)

表:科目別履修者数(前期・後期)

PJ 番号	大学名	科目名	履修者数	
			県立大	拓殖大
1	県立大	国際政策課題演習Ⅰ・Ⅱ	9	1
1	県立大	国際政策演習Ⅰ・Ⅱ 地域実践演習Ⅰ・Ⅱ(安達) 地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(安達)	6	3
2	拓殖大	徳永達己ゼミナール(2年～4年合同)	0	32
2	県立大	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ、地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(杉山)	23	0
3	県立大	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ 地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(兼清)	53	0
3	拓殖大	農業入門演習Ⅰ・Ⅱ(竹下)	0	93
4,6	拓殖大	国際特別講座(実践のまちづくりⅠ)(徳永)	0	76
5	県立大	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ、地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(安藤)	31	0
5	拓殖大	デザインプロジェクト・演習(工藤)	0	30
6	県立大	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ、地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(杉山)	27	0
7	県立大	地域実践入門Ⅰ・Ⅱ、地域理解演習Ⅰ・Ⅱ(兼清)	13	0
7	拓殖大	デザインプロジェクト・演習(永見・森岡)	0	7
合計(延べ人数)			162	242



山梨県立大学フューチャーセンター Casa Prisma

内閣府「地方と東京圏の学生対流促進事業」の一環として、地域と大学との交流拠点となる「山梨県立大学フューチャーセンターCasa Prisma」を設置し、各種イベントを開催するほか、COC+との連携した活動を行ってきた。

主な取組は以下の通り。

① Camp

社会の様々な問題について、未来思考で新たな解決策を探るための対話の場。これまで、働き方や他者との向き合い方をテーマに開催した。

② Café

学生が主体となり、社会問題や気になるテーマを中心に、気軽に意見交換を行う場。これまで、人口減少社会や国際協力、選挙などをテーマに開催した。

③ Chance

様々な人たちが偶然に出会い、対話を通じて情報を交換したり何かに気づいたり出来る、新たな交流サロン。7月より月1回のペースで開催した。

④ ビジネスモデル勉強会

新たな事業創発のツールとして、世界各地で使われている「ビジネスモデルキャンバス」と「バリュープロポジションデザイン」について学ぶ勉強会を開催した。

その他、外部との共催により、「やまなしミニ合同企業説明会」、「地方創生 Mirai サロン」、「映像スクール「Kofu Records」説明会」、「やまなし農業女子と食べる！秋の収穫祭！」などを開催した。



(文責：佐藤 文昭)

V . 事 務 局

1. 運営委員会記録

1. 第1回 平成31年4月16日（火）

主な協議・報告事項：運営委員会と部門配置について／地域研究事業への参加者募集について／平成31年度観光講座の概要について／学生優秀プロジェクトの採点基準変更に関して／平成30年度年度計画進捗状況について／平成30年度地域研究事業評価委員会の開催について／地域研究事業「重点テーマ」計画書について／平成31年度センター関連予算について／平成30年度年報の進捗状況について／「介護と福祉」高大連携授業の報告

2. 第2回 令和元年5月21日（火）

主な協議・報告事項：令和元年度業務計画について／教員の地域貢献活動支援要項の検討について／教員の地域貢献活動支援案件について／笛吹市からの講師派遣依頼について／山梨経済同友会「やまなし女性にプラス！」委員委嘱について／学部共催講座について／観光講座の開催について／秋季総合講座の開催方法・開催時期について／センター長報告事項／年報の発行について／令和元年度地域研究事業選考委員会の開催について／大学コンソーシアムやまなし事業方針について／NEXCO 中日本広報誌での学生の取材について

3. 第3回 令和元年7月5日（金）

主な協議・報告事項：新規重点テーマの決定プロセスについて／情報発信について／センター長報告事項（教研審報告・山梨大学、山梨県との協定締結・CasaPrismaの運営方針及び利用ルール・業務実績報告・監査意見）／各部門等進捗状況 生涯学習部門（山梨観光講座開催案内・山梨政策フォーラム・秋季総合講座の講師の決定・学部共催講座申請手続）地域研究部門（共同研究採択結果・重点テーマ中間報告会（Mirai サロン）実施への準備過程の確認等）／学外との連携について（山日新聞との連携・県立美術館等との連携・山日新聞の石垣委員への依頼について・県民生活・男女参画課への協力（学生への紹介）・学生イニシアティブ事業審査結果）

4. 第4回 令和元年8月9日（金）

主な協議・報告事項：情報発信について／秋季総合講座の開催について／甲州らいふ発行業務に係る事業受託について／教員の地域貢献活動支援案件

について／センター長報告事項（教研審報告 県内大学及び経済同友会との協定締結・15 周年事業の考え方について）各部門進捗報告 交流・発信部門（スフル Web ページの開設準備状況等の報告）地域研究部門（重点テーマ準備会の開催について・2019 年度重点テーマ中間報告会の開催について）／学外との連携について（県立美術館等との連携・山梨県中小企業診断士協会との連携）

5. 第5回 令和元年9月26日（木）

主な協議・報告事項：地域自治会との懇談会日程等について／学部共催講座（看護）の申請について／いのちの授業開催に係る協力依頼について／センター長報告事項（教研審報告）／各部門等進捗報告 生涯学習部門（秋季総合講座の開催報告について） 地域研究部門（第1回重点テーマ準備委員会報告と次回以降の予定について・今年度重点テーマ中間報告会報告）対流事業・COC+事業（情報発信、イベント等開催について）／学外との連携について（県立美術館等との連携・山梨日日新聞との連携・産業観光の会との連携）／次年度予算要求の検討について

6. 第6回 令和元年10月30日（水）

主な協議・報告事項：教員の地域貢献活動支援案件について／学部共催講座（国際）の申請について／学部共催講座（人間）の申請について／センター長報告（教研審報告・15 周年事業）各部門等進捗報告 生涯学習部門（観光講座の開催報告について） 地域研究部門（第2回重点テーマ準備委員会報告について・Mirai サロンの開催について）対流事業、COC+事業（情報発信、イベント等開催について）COC+事業の継続について／学外との連携について（山梨日日新聞の教員への取材依頼について）

7. 第7回 令和元年11月27日（水）

主な協議・報告事項：学生優秀地域プロジェクトの募集と選考委員会について／ホームページの統合について／地域研究事業の中止について／令和2年度センター予算要求及び平成30年度センター決算について／学生便覧の編集について／センター長報告（15 周年事業・本学の STI for SDGs アワード文部科学大臣賞受賞について）／各部門等進捗報告 交流・発信部門（地域自治会との懇親会開催報告について）生涯学習部門（山梨政策フォーラム（学部共催事業）終了報告について）／山梨日日新聞との連携について／平成31年度センター予算執行状況について／大学地域連携研究への投稿依頼について

8. 第8回 令和元年12月18日（水）

主な協議・報告事項：センター長報告事項（15周年事業及びセンター運営について・研修（日本学術会議公開シンポジウム）への参加について）／各部門進捗報告 交流・発信部門（年報の編集について・防災訓練終了報告について・学生優秀地域プロジェクト選考会・認定式について） 地域研究部門（第4回重点テーマ準備委員会の開催について） 対流事業、COC+事業、コンソーシアム（対流事業リレートークイベントについて）／学外との連携について（山梨日日新聞との連携について・北杜高校からの高大連携事業の打診について）／受託事業（冬季日本語研修）の実施について／山梨ことぶき勸学院からの講師派遣依頼について／学生便覧の編集について

9. 第9回 令和2年1月29日（水）

主な協議・報告事項：センター長報告事項（センター業務の見直しについて・15周年事業について・日本学術会議公開シンポジウム出席報告について）／各部門等進捗報告 交流・発信部門（年報の編集について・学生優秀地域プロジェクト認定結果と認定式開催報告について） 生涯学習部門（学部共催講座（福祉）終了報告について） 地域研究部門（第5回重点テーマ準備委員会の開催について） 対流事業、COC+事業、コンソーシアム（やまなし Mirai プロジェクト+最終報告について・やまなし未来計画フォーラムの開催について）／広報こうふ3月号での広報について

10. 第10回 令和2年2月26日（水）

主な協議・報告事項：センター業務の見直しについて／15周年事業の進め方について／センター長報告事項（教研審報告）／各部門等進捗報告 交流・発信部門（高大連携事業に係る協定について） 生涯学習部門（受託事業の終了について） 地域研究部門（第6回重点テーマ準備委員会の開催について・重点テーマ評価委員会・選考委員会の開催について） 対流事業、COC+事業、コンソーシアム（やまなし Mirai プロジェクト+募集要項について・CasaPrisma 利用ルールの改定について・COC+事業実施概要について／学外との連携について（山梨日日新聞社との意見交換会について・県立美術館等との連携について・笛吹市市民ボランティアに係る依頼について・甲斐市からの相談について）／・受託事業の終了について／大学 HP 内のセンター紹介ページの更新について

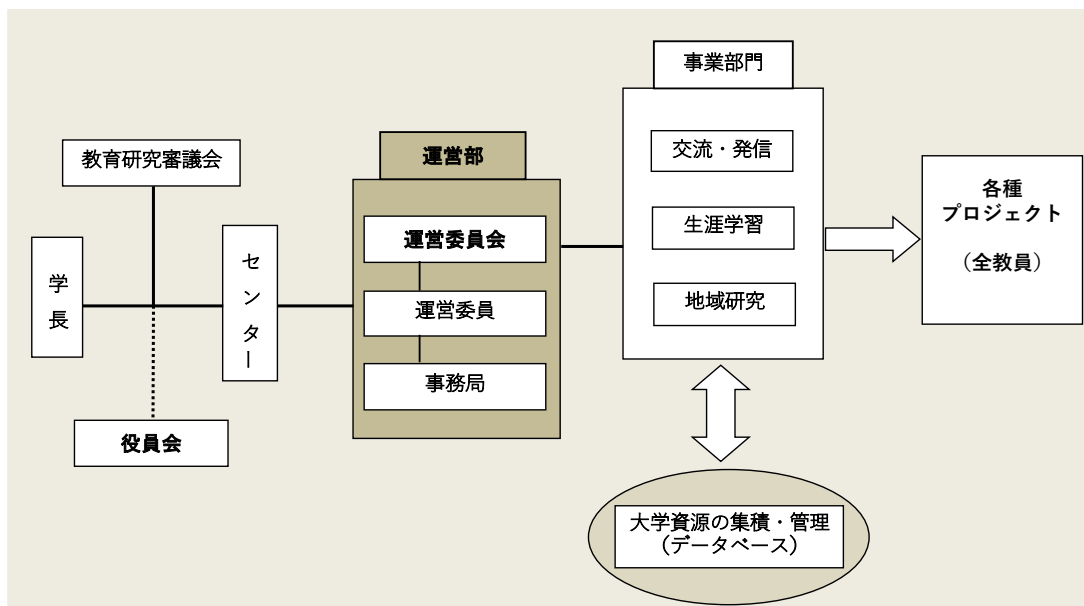
11. 第11回 令和2年3月18日（水）

主な協議・報告事項：センター業務の見直しについて／15周年事業の進め方について／

令和 2 年度センター予算について／教員の地域貢献活動支援の
申請について／センター長報告事項／交流・発信部門（城西高校
との高大連携「福祉と看護」終了報告） 生涯学習部門 地域研
究部門 対流事業、COC+事業、コンソーシアム／学外との連携
について 県立美術館等との連携について

2. 組織図・委員名簿

(1) 組織図



(2) 委員名簿（地域研究交流センター運営委員）

学 部	学 科	氏 名	部 門	専 門 領 域
国 際 政 策 学 部	総合政策学科	箕浦 一哉	センター長	環境社会学
		伊藤 智基	交流・発信部門	行政法、憲法、環境法
	国際コミュニケーション学科	兼清 慎一	生涯学習部門長	メディア論
		杉山 歩	地域研究部門	観光情報学、サービス科学
人 間 福 祉 学 部	福祉コミュニティ学科	青柳 暁子	交流・発信部門長	介護福祉(生活支援技術)
		石垣 千秋	生涯学習部門	医療政策、政治学
	人間形成学科	里見 達也	地域研究部門長	保育学、教育学(特別支援)
看 護 学 部	看護学科	野澤 由美	地域研究部門	精神看護学
		須田 由紀	交流・発信部門	地域看護学
		茅野 久美	生涯学習部門	老年看護学
地域研究交流センター		奥水 達司	地域研究部門	地質学、地下水学、地球環境科学
		佐藤 文昭	地域研究交流センター長付	

3. 年間の時系列記録

年 月 日	事業・行事名	部門名
2019年4月11日	地域研究事業評価委員会	地域研究
2019年4月16日	第1回地域研究交流センター運営委員会	
2019年5月12日	日本語・日本文化講座(1)	生涯学習
2019年5月19日	日本語・日本文化講座(2)	生涯学習
2019年5月21日	第2回地域研究交流センター運営委員会	
2019年5月26日	日本語・日本文化講座(3)	生涯学習
2019年5月31日	地域研究交流センター2018年度年報発行	交流・発信
2019年6月9日	日本語・日本文化講座(4)	生涯学習
2019年6月13日	地域研究事業選考委員会	地域研究
2019年6月16日	日本語・日本文化講座(5)	生涯学習
2019年6月23日	日本語・日本文化講座(6)	生涯学習
2019年6月24日	第1回地方と東京圏の大学生対流促進事業運営委員会	
2019年6月30日	日本語・日本文化講座(7)	生涯学習
2019年7月4日	山梨政策フォーラム	生涯学習
2019年7月5日	第3回地域研究交流センター運営委員会	
2019年7月7日	日本語・日本文化講座(8)	生涯学習
2019年7月14日	日本語・日本文化講座(9)	生涯学習
2019年7月28日	日本語・日本文化講座(10)	生涯学習
2019年7月30日	地方と東京圏の大学生対流促進事業教育プログラム検討会議	
2019年8月4日	観光講座(1)	生涯学習
2019年8月4日	子育て支援員研修(1)	生涯学習
2019年8月9日	第4回地域研究交流センター運営委員会	
2019年8月9日	第1回重点テーマ準備委員会	地域研究

年 月 日	事業・行事名	部門名
2019年8月10日	子育て支援員研修(2)	生涯学習
2019年8月26日	子育て支援員研修(3)	生涯学習
2019年8月27日	子育て支援員研修(4)	生涯学習
2019年8月28日	子育て支援員研修(5)	生涯学習
2019年8月29日	子育て支援員研修(6)	生涯学習
2019年9月1日	観光講座(2)	生涯学習
2019年9月8日	観光講座(3)	生涯学習
2019年9月16日	秋季総合講座	生涯学習
2019年9月26日	第5回地域研究交流センター運営委員会	
2019年9月27日	子育て支援員研修(7)	生涯学習
2019年9月28日	子育て支援員研修(8)	生涯学習
2019年10月6日	観光講座(4)	生涯学習
2019年10月6日	日本語・日本文化講座(11)	生涯学習
2019年10月15日	第2回重点テーマ準備委員会	地域研究
2019年10月20日	日本語・日本文化講座(12)	生涯学習
2019年10月20日	観光講座(5)	生涯学習
2019年10月27日	日本語・日本文化講座(13)	生涯学習
2019年10月30日	第6回地域研究交流センター運営委員会	
2019年11月7日	山梨政策フォーラム	生涯学習
2019年11月10日	甲府市穴切・池田地区総合防災訓練への参加・協力	交流・発信
2019年11月11日	地域自治会(穴切地区、池田地区)との懇談会	交流・発信
2019年11月16日	ソーシャルサービス+デザイン	
2019年11月17日	日本語・日本文化講座(14)	生涯学習

年 月 日	事業・行事名	部門名
2019年11月19日	地域との対話の場(Miraiサロン)	地域研究
2019年11月26日	第3回重点テーマ準備委員会	地域研究
2019年11月27日	第7回地域研究交流センター運営委員会	
2019年11月30日	やまなし市民後見人養成基礎講座(1)	生涯学習
2019年12月1日	日本語・日本文化講座(15)	生涯学習
2019年12月7日	健康講座(いきいき健康づくり)	生涯学習
2019年12月7日	やまなし市民後見人養成基礎講座(2)	生涯学習
2019年12月8日	日本語・日本文化講座(16)	生涯学習
2019年12月14日	やまなし市民後見人養成基礎講座(3)	生涯学習
2019年12月15日	日本語・日本文化講座(17)	生涯学習
2019年12月18日	第8回地域研究交流センター運営委員会	
2019年12月21日	やまなし市民後見人養成基礎講座(4)	生涯学習
2019年12月25日	学生優秀地域プロジェクト選考委員会	交流・発信
2020年1月11日	地方と東京圏の大学生対流促進事業リレートークイベント	
2020年1月21日	第4回重点テーマ準備委員会	地域研究
2020年1月26日	日本語・日本文化講座(18)	生涯学習
2020年1月28日	学生優秀地域プロジェクト認定式	交流・発信
2020年1月29日	第9回地域研究交流センター運営委員会	
2020年2月1日	やまなし市民後見人養成基礎講座(5)	生涯学習
2020年2月2日	日本語・日本文化講座(19)	生涯学習
2020年2月2日	地方と東京圏の大学生対流促進事業最終成果報告会	
2020年2月8日	やまなし市民後見人養成基礎講座(6)	生涯学習
2020年2月9日	日本語・日本文化講座(20)	生涯学習
2020年2月17日	第2回地方と東京圏の大学生対流促進事業運営委員会	

年 月 日	事業・行事名	部門名
2020年2月17日	第2回地方と東京圏の大学生対流促進事業運営委員会	
2020年2月19日	第5回重点テーマ準備委員会	地域研究
2020年2月26日	第10回地域研究交流センター運営委員会	
2020年2月28日	甲州らいふvol.10発行	
2020年3月3日	第6回重点テーマ準備委員会	地域研究
2020年3月13日	重点テーマ評価委員会・選定委員会	地域研究
2020年3月18日	第11回地域研究交流センター運営委員会	
2020年3月31日	地域研究事業報告書 発行	地域研究
2019年4月～2020年3月	甲府城西高等学校 高大連携事業	交流・発信
2019年4月～2020年3月	身延高等学校 高大連携事業	交流・発信
2020年2月5日～2020年2月21日	冬季短期日本語研修	



2019 日本で生活する外国人のための
「日本語・日本文化講座」

場所： 山梨県立大学 飯田キャンパス A館6階
(甲府市飯田5-11-1)

受講料：無料 (教材費は自己負担：2,000円～3,000円)

開催日 (いずれも日曜日 13:00～15:00)

5月	12日、19日、26日
6月	9日、16日、23日、30日
7月	7日 (文化講座：書道)、14日、28日
10月	6日、20日、27日
11月	17日
12月	1日、8日、15日 (文化講座：和太鼓)
2020年	
1月	26日
2月	2日、9日

*12月15日の文化講座：和太鼓はB館講堂で実施します

For foreigners living in
Japan, "Japanese
language and Culture
Course"

为生活在日本的外国人开设
“日本語・日本文化講座”

일본에서 생활하는
외국인을 위한 ‘일본어・
일본문화 강좌’

Para os estrangeiros
que vivem no Japão
“Curso de lingua e
cultura Japonesa”

Para los extranjeros que
viven en Japón “Curso
de lengua y cultura
Japonesa”

問い合わせ先

山梨県立大学

社会連携課

055-225-5412

主催：山梨県立大学 / 甲府市

連携：山梨県外国人労働者ネットワーク
オフィス

山梨県立大学観光講座

山梨のユニークな 歴史・文化と自然変遷

山梨県内にはユニークな特徴や価値を備えた自然及び文化が多く存在し、観光資源としても寄与しています。この成り立ちや変遷等について、より深く知っていただけるように、山梨県立大学の観光講座では専門家による講演を実施してきました。本年度は、「山梨のユニークな歴史・文化と自然変遷」と題するテーマで、多分野からの話題を用意し、最終回には現地視察も企画しました。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

開催
時間

午後1時～午後4時30分

(受付は午後12時30分から) ※現地視察(第5回)は午前9時～午後4時半

開催
場所

山梨県立大学飯田キャンパス 講堂

(甲府市飯田5-11-1)

参加
費

座学講演会は無料

現地視察(第5回)は有料

1回目

8月4日(日)

富士北麓の世界文化遺産と鎌倉街道……………杉本悠樹(富士河口湖町教育委員会)
富士山麓の洞穴-信仰と産業……………新津 健(山梨県考古学協会)

2回目

9月1日(日)

富士山の地下水特性と富士山麓の水循環……………興水達司(山梨県立大学)
西湖におけるクニマスの発見から最新研究まで……………青柳敏裕(山梨県水産技術センター)

3回目

9月8日(日)

山梨の堰堤遺産と近年の土砂災害……………萬徳昌昭(国土交通省富士川砂防事務所)
早川町の自然資源を活用した地域活性化……………大西信正(ヘルシー美里)

4回目

10月6日(日)

甲武信ユネスコエコパークの魅力と取り組み……………村山 力(山梨県立武田の杜サービスセンター)
山梨の道祖神-石造物と祭り……………丸尾依子(山梨県立博物館)

5回目

10月20日(日)

★バスをチャーターして現地視察(大学発着)

★参加料(1000円) 当日支払

富士山中腹の宝永噴火口や本栖湖及びその周辺に分布する青木ヶ原溶岩など、富士山噴火の現場を視察し、さらに、この観察ルート沿いに存在する文化的価値の高い人穴浅間神社や山宮浅間神社などでは、世界遺産登録の核心の山岳信仰について理解を深めます。



参加申込

TEL.055-225-5412 FAX.055-225-1150

社会連携課

E-mail uc-re-accept@yamanashi-ken.ac.jp にてお申し込みください。

参加申し込みにつきましては裏面をご覧ください。

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター



公立大学法人

山梨県立大学

Yamanashi Prefectural University

【13:30～13:40】

地域研究交流センターのご紹介

「地域に開かれ地域と向き合う大学」として多様な地域貢献を行っている地域研究交流センターの最近の取組についてご紹介します。

【13:40～14:30】

元号「令和」を導いた『萬葉集』を読む

国際政策学部 二戸麻砂彦 教授

新元号が公になって以降、その出典は『萬葉集』巻五に収載された「梅花歌州二首」の序であることが明らかになりました。太宰府の帥館において、大伴旅人によって梅花の宴が催され、陪席した上下の貴族32人が相互に読んだ歌の記録です。どのように梅を織り込んで歌い交わしたのか、読み進めてみましょう。



【14:40～15:30】

がん予防と免疫力 ～その人の持てる力を生かすケア～

看護学部 前澤美代子 准教授

私たちの身体は、毎日のようにがん細胞が発生していますが、免疫系が、がん細胞を破壊しています。今回、免疫系に働きかけるアロマセラピー、ストレッチ、呼吸法を一緒に行い、免疫力を実感してみましょう。

【16:00～17:00】

植物の力で笑顔あふれる地域に ～芝人形づくりのワークショップ～

人間福祉学部 前川有希子 講師
五味武彦 元非常勤講師

植物の育ちや実りは、多くの人々を笑顔にして幸せな気持ちにさせてくれます。植物を身近に置いて、生活に取り入れて幸せになって欲しいと考えます。今回のワークショップでは、表情豊かな芝人形をつくりましょう。きっと個性ある人形ができます。植物を通じて、楽しい時間を過ごしましょう、笑顔になりましょう。



【参加申し込み】

参加申し込みにつきましては、裏面をご覧ください。

【申し込み期限】

令和元年9月12日(木)

定員になり次第締め切ります。

【お問い合わせ】

地域研究交流センター(社会連携課)

TEL 055-225-5412

E-mail: ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

山梨県立大学 地域研究交流センター

秋季総合講座

2019年 9月16日 月祝

会場 山梨県立大学飯田キャンパス
A館6階サテライト教室 (甲府市飯田5-11-1)
開催時間 13:30～17:00 (13:00開場)



令和元年度山梨県委託事業

やまなし 市民後見人 養成基礎講座

第6期

成年後見制度に関心のある方、地域での高齢者問題・障害者問題に関心のある方などを対象に、山梨県立大学では「やまなし市民後見人養成講座」の第6期生を募集いたします。

全6回の講座を右記の日程で開催いたします。講座の履修者には修了証をお渡しいたします。

市民後見人の基本的なことからお話しいたします。

初心者・実務家の皆様どうか奮ってご参加ください。

※講座内容は、昨年度と同様です

参加料 無料

場 所 山梨県立大学飯田キャンパス
C館1階 101教室

※12/14のみA館6階 サラット教室
甲府市飯田5-11-1 TEL 055-225-5412

申 込 FAX、メール、電話で
お申込ください

詳しくは裏面をご覧ください

開催日時

13:00～16:30

※第1回のみ

12:00開始

11/30(土)

イントロダクション

「市民後見人の概要と

地域における後見人の役割」

12/7(土)

「後見制度と民法」

12/14(土)

「社会福祉協議会等の

活動からみた市民後見」

12/21(土)

「障害者への理解と

市民後見活動」

2/1(土)

「高齢者の理解と対応方法」

2/8(土)

「地域に根差す

市民後見人誕生に向けて」

お子さんからシニアの方まで **ウォーキング!**
みんなで楽しく

いきいき健康づくり



2019. **12.7** (土)

参加費: 無料

※県内のどなたでも参加できます

時間 9:30~11:45 受付9:00~

場所 山梨県立大学 池田キャンパス 体育館

講師

K2ライフサポート

きむら きよし

木村 清 先生

かとう みく

加藤 未来 先生

健康づくりのための歩き方講座の後、実際に屋外をウォーキングします!

この機会に、ウォーキング習慣をはじめてみませんか。

＜持ち物＞体育館履き、帽子、タオル、飲み物 ＜服装＞動きやすい服装、運動靴

共催／山梨県立大学看護学部 ・ 池田地区保健計画推進協議会

協賛／山梨県立大学地域研究交流センター

**お問い合わせ
参加申し込み**

窓口：山梨県立大学看護学部

TEL/055-253-7780 FAX/055-253-7781

E-mail/ucrc-accept-n@yamanashi-ken.ac.jp

★FAXまたはE-mailでお申し込みの場合、件名に「健康講座」

本文に「お名前、ご年齢、参加人数（大人・子ども）連絡先電話番号」を
ご記入ください。

第2回山梨政策フォーラム

甲府市の地域公共交通の現状と課題

交通ミニマムの確保と持続可能な地域公共交通のデザイン

山梨県の地域課題の一つに地域公共交通の問題がある。地域公共交通の再生とコンパクトシティの形成を主な内容とする「地域公共交通再生法」(H25)が示唆するように、人口減少や高齢化が進む地域においては住民の生活の「足」を確保することが喫緊の課題となっている。公共交通のインフラが不足し、自家用車に頼る地域においては従来からの通勤・通学の課題に加え高齢化に伴う免許返納による交通弱者が増加しており、その対策が問われている。

本フォーラムでは、甲府市の地域公共交通政策を中心に、高齢者や中高生の買い物・通学のために欠かせない「生活の足の確保」という喫緊の地域課題の解決とともに、行政・企業・地域が相互補完する持続的な地域公共交通のデザインについて議論する場としたい。

・日時 2019年7月4日(木) 13:00~16:10

・場所 山梨県立大学飯田キャンパスA館6階サテライト教室

・共催 山梨県立大学国際政策学部・地域研究交流センター

・プログラム

13:00~13:10 開催挨拶 八代 一浩氏(本学国際政策学部教授・学部長)

13:10~13:50 講演1 申 龍徹氏(本学国際政策学部准教授)

「地域公共交通政策の動向について」

13:50~14:30 講演2 土橋 克己氏(甲府市リア交通室交通政策課長補佐)

「甲府市の地域公共交通政策の現状と課題について」

14:30~14:50 休憩

14:50~16:10 パネルディスカッション

「交通ミニマムの確保と持続可能な地域公共交通のデザイン」

・パネリスト

福島 敏三氏(甲府城南商店街振興組理事長)

土橋 克己氏(甲府市交通政策課長補佐)

石井 信行氏(山梨大学工学部准教授)

申 龍徹氏(本学国際政策学部准教授)

・司会 熊谷 隆一氏(本学国際政策学部教授)

・参加費 無料(どなたでも参加可能です)

・申し込み 不要(直接会場にお越しください)

・問合せ先 山梨県立大学国際政策学部申研究室

shin@yamanashi-ken.ac.jp(メールのみ)



公立大学法人

山梨県立大学

Yamanashi Prefectural University



2019 年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

発行者：地域研究交流センター長 箕浦 一哉

編集：地域研究交流センター 交流・発信部門

部門長 青柳 暁子（福祉コミュニティ学科）

伊藤 智基（総合政策学科）

須田 由紀（看護学科）

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5 丁目 11-1

TEL：055-225-5412 FAX：055-225-1150

E-mail：ucre@yamanashi-ken.ac.jp

発行日：2020 年 5 月 31 日

An orange oval logo with the text "UCRE" inside.

UCRE

University Center for Research and Exchange

山梨県立大学地域研究交流センター

〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1

TEL 055-225-5412 FAX 055-225-1150